
G Xworld

キャンドル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G X w o r l d

【Nコード】

N 2 6 9 3 S

【作者名】

キャンドル

【あらすじ】

遊戯王GXの世界に迷い込んだ 小波星五

原作介入をしつつこの運命を楽しもうと奮闘する物語です

筆記試験（前書き）

下手です閲覧注意です勢いで進めます

筆記試験

母「星五今日はデュエルアカデミアの筆記試験なんですよ早く起きなさい」

星五「試験か・・・起きなきゃ・・・ん？デュエルアカデミア？」

星五（デュエルアカデミアってあれだよな・・・遊戯王の世界に飛ばされた？

ま・・・夢だよなこれは夢よし寝よう）

星五「いつてええええ」

母親にフライパンで殴られた・・・痛すぎる

母「さっさと起きなさいって言うてるでしょはい早く着替えて」

星五（痛いって事は・・・夢じゃないのかとりあえず試験行ってみるか）

・・・・・・・・海馬ランド内試験会場・・・・・・・・

磯野「試験開始iiiiiii」

星五（わざわざデュエル開始みたいに言わなくてもな・・・おっと試験試験）

問1青眼の白龍の攻撃力を答える

星五（嫁溺愛すぎるだろ・・・3000つと）

問2オベリスクの巨神兵の攻撃力を答える

問3エネミーコントローラー生贄効果のコマンドを答える

星五（自分のカードばかりだなおいえつと4000と左右ABつと・・・）

- - - - - 中略 - - - - -

問50神のカードのランクを不等号で答える

星五（普通はラー>オベリスク オシリスなんだろうけど・・・社長だから・・・

オベリスク>ラー>オシリスつと・・・アカデミアのランクもこれだし・・・）

黒服「試験の結果は実技試験の際発表します実技試験は一週間後です」

星五（こんな試験で大丈夫なのか？まあ・・・帰るか）

筆記試験（後書き）

どうでしょうか 次回は実技試験です。

デュエル試験（前書き）

デュエルが始まります相手はTF基準で動いています。

デュエル試験

受験番号1番小波星五デュエル場にあがってください

星五「やっと俺の番か・・・試験は予想通り1位1000点だった」

クロノス「満点を取ったご褒美に私が相手をしてあげるノーネ」

星五（クロノス・・・実技最高責任者甘く見るわけにはいかないかな・・・）

「デュエル」

クロノス「先行は譲るノーネ」

星五「ありがとうございます 俺のターンドロー」

星五「天空聖者メルティウスを攻撃表示で召喚します。カードを3枚セットしてターンエンド」

天空聖者メルティウス

レベル4 光属性 天使族

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、
カウンター罫が発動される度に自分は1000ライフポイント回復する。

さらに、フィールド上に「天空の聖域」が表側表示で存在する場合、
相手フィールド上に存在するカード1枚を破壊する。

- - - - - 十代遅刻で到着 - - - - -

十代「おっやってるやってる」

クロノス「私のターンδροーによ」

クロノス「手札から齒車街の効果をはつどー」

クロノス「アンティークギアビーストをしょうカーン」

クロノス「齒車街がある時ア「ンティークギアモンスターの生贄を
少なく出来る・・・ですよね？」

クロノス「・・・その通りなノーネ」

齒車街

フィールド魔法

アンティークギアと名のついたモンスターを召喚する場合に
必要なリリースを1体少なくする事ができる。

このカードが破壊され墓地に送られた時、自分の手札デッキ墓地から
アンティークギアと名のついたモンスター1体を特殊召喚する事が
できる

星五「ではその召喚にカウンタートラップキックバックを発動しま
す手札に戻してください」

キックバック

カウンター罠

モンスターの召喚反転召喚を無効にし、そのモンスターを持ち主の手札に戻す。

クロノス「うう・・・分かったノーネ」

星五「メルティウスの効果でライフを1000回復します。さらに手札から裁きを下すものボルテニスの効果を発動 カウンタートラップの発動に成功したとき自分フィールドのモンスターを全てリリースすることで特殊召喚できます。メルティウスをリリースしボルテニスを特殊召喚 破壊はしません」

レベル8光属性天使族 攻2800/守1400

自分のカウンター罫が発動に成功した場合自分フィールド上のモンスターを全て生け贄に捧げる事で特殊召喚する事ができる。この方法で特殊召喚に成功した場合生け贄に捧げた天使族モンスターの数まで

相手フィールド上のカードを破壊する事ができる。

クロノス「・・・カードを1枚セットしてターンエンドなノーネ」

星五「俺のターンドロー 手札から死者蘇生を発動します。メルティウスを特殊召喚し

バトル2体でダイレクトアタック」

クロノス「ペペロンチーノ」

星五4000 クロノス0

星五「ありがとうございました」

十代「あの1番凄い強さだったな」

翔「そりゃそうさ受験番号1番つまり筆記試験第一位の星五くんだよ」

星五「そういえば俺が1番になったら三沢の存在がさらに薄くなる気が十代が三沢のデュエル

見てないわけだし・・・モブ化するのか・・・」

モブ教師「星五くんは審議の必要もない決まりだな」

黒服「もう一人受付時刻ぎりぎりに来た受験生が・・・」

クロノス「・・・・・・・・・・（ハッその受験生を倒して汚名返上するノーネ」

クロノス「仕方ないノーネその代わり私がデュエルをするノーです」

星五（原作通り十代にも負けたクロノス先生・・・受験生に2回負けるってプライドが大丈夫かなどうでもいいけど）

星五（ガンガン介入するためにも十代と接触しておきたいな・・・
思ってたらあっちから来た

そりゃそうだよな・・・デュエルバカだもん）

十代「よお星五デュエルしようぜ」

星五「良いけどもうお互いのデュエルは見てるんだからアカデミア
でしょうぜ

十代も合格するだろうしもっと強くなってからの方が楽しい
と思うし」

十代「おおそれもそうだな約束だぜ」

星五「じゃあな（そういえば・・・介入するならレッドの方が良いよな希望入れとくか）」

デュエル試験（後書き）

初めてデュエルを書いたということ

禁止制限リストは2008年3月の物を使用しました。

次回は星五についてキャラ紹介を書きます

キャラ紹介（前書き）

今回は星五の紹介です。

キャラ紹介

名前：小波星五

読み：こなみせいご

由来：遊戯王などのゲーム会社KONAMIと名前を決めるときトランプでダイヤの5が出たから

容姿：TFの主人公赤帽子で顔を隠している

デッキ：現在2つ天使族・??? 作者の気分で増えます

好きな原作キャラ：男力イザー亮女早乙女レイ

目標：レイを落と・・・この世界を楽しむ

運動：並

頭脳：デュエルは良勉強は並

性格：友達想い友達を傷つける敵には怒り狂う

好物：甘いもの

苦手な物：キノコ類

趣味：デュエルは勿論タロット占いトランプ占いポーカーなどカードを使ったもの

キャラ紹介（後書き）

次回は万丈目に呼び出される所です。

訂正

十代との約束のデュエルです。

十代戦（前書き）

星五が介入したことにより世界に変化が
で始めます。

十代戦

へりに乗せられてデュエルアカデミアに付いた

着いてすぐに「さっそくデュエルしようぜー」

星五「いいぜ始めようか」

「デュエル」

星五「俺の先行ドロー」

星五（中々良い手札だな・・・）

星五「俺は手札から未来融合フューチャーフュージョンを発動」

未来融合フューチャーフュージョン 永続魔法

自分のエクストラデッキに存在する融合モンスター1体をお互いに確認し、

決められた融合素材モンスターを自分のデッキから墓地へ送る。

発動後2回目の自分のスタンバイフェイズ時に、確認した融合モンスター1体を

融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する

星五「真紅眼の飛竜2枚とレッドアイズダークネスメタルドラゴン

2枚と

ホワイトホーンズドラゴンを墓地に送り2ターン目の俺のスタンバイフェイズに

FGDを特殊召喚する」

十代「なんだあ天使族デッキじゃないのかあ」

星五「ああ見たのと同じようなデュエルじゃつまらないだろ？」

星五「更に手札から飛竜を召喚 場の飛竜を除外しダークネスメタルを特殊召喚

ダークネスメタルの効果でマテリアルドラゴンを特殊召喚」

真紅眼の飛竜

レベル4風属性ドラゴン族攻1800守1600

通常召喚を行っていないターンのエンドフェイズ時に、

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で、

自分の墓地に存在する「レッドアイズ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

レベル10闇属性ドラゴン族攻2800守2400

このカードは自分フィールド上に表側表示で存在するドラゴン族モンスター1体を

ゲームから除外し、手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札または自分の墓地から

「レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン」以外のドラゴン族モンスター1体を

自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

レベル6光属性ドラゴン族攻2400守2000

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、ライフポイントにダメージを与える効果は、ライフポイントを回復する効果になる。

また、「フィールド上のモンスターを破壊する効果」を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、

手札を1枚墓地へ送る事でその発動を無効にし破壊する。

星五「先行は最初のターン攻撃は出来ない ターンエンドだ」

十代「1ターンでこんなに強そうなモンスターを召喚するなんて星五すげえな」

星五（元の世界じゃもつとえぐいのだらけだけどな・・・）

十代「俺のターンだ ドロー」

十代（この手札じゃこのドラゴンを倒せねえここは次のドローに全てをかけるぜ）

十代「俺はカードとモンスターをセットしてターンエンド」

星五「俺のターンだなドロー」

星五（リバースカードを警戒して・・・融合はしないでおくか）

星五「ダークネスメタルの効果で手札のレッドアイズブラックドラゴンを特殊召喚」

十代「又その効果かよー」

星五「バトル マテリアルドラゴンで伏せモンスターに攻撃」

フォレストマン守2000 破壊

十代「くっ・・・」

星五（フォレストマンって漫画版だよな・・・やっぱり世界が変わってるのか・・・面白そうだから良いけど）

星五「ブラックドラゴンでダイレクトアタックだ」

十代「があああ」

十代1600

星五「これで最後だダークネスメタルでダイレクトアタック」

十代「うわあああああああ」

十代0

星五（初手次第では怖いな4000ルールだし・・・）

十代「今回は負けたけど次は俺が勝つぜ又やろうな」

星五「おおっじゃあ寮見に行こうぜ」

—————レッド寮—————

星五「・・・ボロいな（リアルでは想像以上だ・・・）」

十代「えー俺は結構いいと思うぜ」

星五「そうか・・・あっ部屋組み分けがはってあるな俺の部屋はど
こかな・・・」

【隼人・十代】 【翔・モブ】 【星五】

星五「何故に俺だけ独り・・・まあ広く使えるから良いか」

十代戦（後書き）

うん一方的になる

面白いデッキを作ろう

万丈目とのアンティードュエル

- - - - - 歓迎会後十代の部屋 - - - - -

星五「寝る前にデュエルしないかって・・・ん？」

メール「やぁドロップアウトボーイ午前0時デュエルフィールドで待っている

互いのベストカードを賭けたアンティールールでデュエルだ
勇気があるなら来るんだな」

星五「だってさどうする？十代・・・まあ聞くまでもないか」

十代「ああ挑戦されたら受けるのが男だからな」

星五「じゃあ行くか」

- - - - - オベリスクブルー専用デュエル場 - - -

万丈目「よく来たな110番と1番」

星五（順位知ってるならただのレッドじゃないって

気が付くと思うけどそんなに気に入らないというのか）

十代「デュエルと聞いたら来ない理由はないぜ」

星五「暇だからな」

万丈目「見せてもらっぜクロノス教諭を破ったのがまぐれか実力か
いいか互いのベストカードを賭けたアンティールだ」

星五「じゃあ俺から行かせてもらおうか」

「デュエル」

星五「俺のターン ドロー」

万丈目「ドロップアウトボーイの癖に先行を取るとは・・・まあいいハンデとしてくれてやる」

星五「おろかな埋葬を発動」

おろかな埋葬

自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る

万丈目「そんなデメリットカードを使うなんてやはりドロップアウトボーイか」

オベリスクブルーとオシリスレッドその頭脳の差が既に勝敗を決めてるんだよ」

星五（頭脳だとしても負けてないんだけどな単純にして極悪怖い怖い）

星五「デッキからワイト夫人を墓地に送る」

ワイト夫人

レベル3闇属性アンデット族攻0守2200

このカードのカード名は、墓地に存在する限り「ワイト」として扱う。

また、このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、フィールド上に表側表示で存在する「ワイト夫人」以外のレベル3以下の

アンデット族モンスターは戦闘によっては破壊されず、

魔法・罠カードの効果も受けない。

万丈目「ワイトだど？そんな骨だけの雑魚になにが出来る」

星五「E・HEROプリズマーを召喚 アンデットウォーリアー見せデッキからワイトを墓地に」

E・HEROプリズマー

レベル4光属性戦士族攻1700守1100

自分のエクストラデッキに存在する融合モンスター1体を相手に見せ、

そのモンスターにカード名が記されている融合素材モンスター1体を自分のデッキから墓地へ送って発動する。

このカードはエンドフェイズ時まで墓地へ送ったモンスターと同名カードとして扱う。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

ワイト

レベル1闇属性アンデット族攻 300守 200

星五「カードを1枚セットしターンエンドだ」

万丈目「俺様のターン」

万丈目「カードを2枚セットしターンエンドだ」

星五「俺のターン プリズマーの効果でワイトを墓地に」

星五「ゴブリンゾンビを召喚 バトル」
ゴブリンゾンビ

レベル4闇属性アンデット族攻1100守1050
このカードが相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、
相手はデッキの上からカードを1枚墓地へ送る。
このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、
自分のデッキから守備力1200以下の
アンデット族モンスター1体を手札に加える。

星五「ゴブリンゾンビでダイレクトアタック」

万丈目「ぐっ・・・」

星五「続けてプリズマーでダイレクトアタック」

万丈目「がつ・・・」

万丈目1200

星五「ターンエンドだ」

万丈目「雑魚が・・・粹がりやがって・・・俺様のターン」

万丈目「カードをセットモンスターをセットしターンエンド」

星五「プリズマーでワイトを墓地に送りバトル プリズマーでセットモンスターに攻撃」

リボーンゾンビ

レベル4闇属性アンデット族攻1000守1600

自分の手札が0枚の場合、

フィールド上に攻撃表示で存在するこのカードは戦闘では破壊されない。

破壊

星五「まだゴブリンゾンビのダイレクトアタック」

万丈目100

星五「ターンエンドだ」

万丈目「まだ俺にもツキがあるようだな 俺様のターン」

万丈目「ハハハ俺はライトニングボルテックスを発動貴様のモンスターは全滅だ」

明日香「皆大変ガードマンが来るわ急いで逃げなきゃ」

星五「あれ？オベリスクブルーの女王様居たんですか門限過ぎてるのに」

明日香「うつ・・・そんなことより隠れなきゃ」

万丈目「ふんっ勝負は預けておいてやる中々の実力はあるようだが俺には及ばないな」

星五「1ポイントも削れてない癖になに言ってるんだ」

明日香「デュエルが終わってよかったじゃない全滅でどうなったたか分からないんだから」

星五「いやこのデュエルは俺の勝ちだぜ1ポイントも削られずに」

明日香「万丈目君の手札にモンスターが居たかも知れないじゃない」

星五「まず手札断殺でワイト夫人とワイトキングを墓地に送ってエリニエルリフトで

キングを蘇生 これで勝ってたんだ」

明日香「万丈目君相手に1ポイントも削られずに勝つなんて貴方どうなってるの？」

星五「さあなじゃあ俺は寮に戻るぜ」

十代「えー俺結局デュエル出来てないぜー」

星五「今度今のデッキでやってやるから我慢しろ退学になったら拙いだろ」

十代「それもそうだなもつとこの学園でいろんな奴とデュエルしたいしでも絶対だぞ」

万丈目とのアンティードュエル（後書き）

次回は・・・3話の様子を書きます

VS 明日香（前書き）

授業風景と明日香とのデュエルです。

V S 明日香

クロノス「シニョール丸藤 フィールド魔法の説明をおねがいしま
スーノ」

翔「はい・・・えっと・・・ああ・・・」

「そんなの幼稚園児だって知ってるぜ」

クロノス「よろしい引っ込みなさいーノ 基本中の基本も答えられ
ないーとは さすがオシリスレッド 驚きデスーノ」

星五「じゃあ代わりにオシリスレッドの俺が説明しますよ

フィールド魔法は全フィールドで1枚しか表で存在出来ない
カード

2枚目が発動された場合前にあったカードは破壊される。
通常の魔法・罠ゾーンとは違うフィールド魔法ゾーンに置か
れる。

先生の歯車街の様に召喚を助ける効果や十代のスカイスケレ
ーパーの様な

パラメーターを変えるものまで様々な効果がある。

魔法カードのアイコンは手裏剣のような形をしている。

フィールド魔法がないと存在出来ないカードは相手のフィー
ルド魔法

に上書きする場合は残り自分のフィールド魔法を上書きする
場合は残らない

これは後者の場合一瞬フィールド魔法が無くなるから。
フィールド魔法等攻撃力が上がるカードの変化適応は召喚し

た瞬間

例えば先生の古代の機械兵士が召喚された時ガイアパワーが発動していた場合

1500を超えるので奈落の落とし穴を発動できる。

また殆どのフィールド魔法は相手フィールドのモンスターにも適応される。

とこれぐらいでいいですか？これがオシリスレッドの知識ですが」

クロノス「うぐぐぐぐ」

十代「それに先生 知識と実践は関係ないですよね」

クロノス「んなあ？」

十代「だって俺も星五もクロノス先生にデュエルで勝っちゃったし」

- - - - - 錬金術 - - - - -

錬金術とは・・・金属に変える・・・

星五（何でこんな授業が・・・面倒臭い・・・錬金術ってあれだろ俺の人生半分の等価交換に人の人生半分奪う奴だろ？）

- - - - - クロノスの部屋 - - - - -

クロノス「よくも私に恥をかかせてくれたノーネ このままで済むと思ったら

大間違いでスーノ」

- - - - - 十代の部屋 - - - - -

星五「ワイトを墓地に」

星五「ん？ちよつと待ってくれメールが」

メール「マルフジショウヲアズカツテイルカエシテホシクバジョシリヨウマデコレヨ」

星五（偽ラブレターかっていうか何で俺なんだよバカにしたのは十代だろ・・・）

星五「仕方ない行くか」

- - - - - オベリスクブルー女子寮裏 - - - - -

ジュンコ「こいつがね 女子寮のお風呂を覗いたのよ」

翔「覗いてないって」

星五「覗いてないならここに居る必要はないんじゃないやあ連れて帰るか」

明日香「ちよつと待ちなさい 私とデュエルしない？」

星五「しない 女のプライドを破壊するのは趣味じゃないからな」

明日香「何よ・・・私なんて余裕で叩き潰せるような言い方ね」

星五「そう取りたいならそう取ればいいさ　じゃ翔行くぞ」

明日香「覗いてないって言われても信じられないから　覗きのこと通報しても良いのね？」

星五「・・・仕方ないな」

「デュエル」

明日香「私のターンよ　ドロー」

明日香「ヘカテリスを捨ててヴァルハラを手札に

ヴァルハラの効果でマンジュゴッドを

特殊召喚モンスターをセットしカードを2枚セットして

ターンエンドよ」

ヘカテリス

レベル4 光属性天使族攻1500守1100

このカードを手札から墓地へ捨てて発動する。

自分のデッキから「神の居城-ヴァルハラ」1枚を手札に加える。

神の居城ヴァルハラ

永續魔法

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

手札から天使族モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

マンジュゴッド

レベル4 光属性天使族攻1400守1000

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、
自分のデッキから儀式モンスターまたは
儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる

星五「俺のターン ドロー（通常召喚しとけば加えたのにな）

ヴァルハラ発動 メルティウスを特殊召喚

カードを2枚セツトし

バトルメルティウスでマンジユに攻撃」

マンジユ1400 メルティウス1600

明日香3800

星五「メイン2天空の聖域をはつ「サイクロンを発動するわ」・・・
ターンエンドだ」

サイクロン

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する

明日香「私のターン」

明日香「メタモルポットを反転召喚お互いに手札を捨てて5枚ドロ
ー」

レベル2地属性岩石族攻 700守 600

リバース：お互いの手札を全て捨てる。

その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドロース
る。

明日香「神聖なる魂を特殊召喚するわ 更にクリッターを召喚」

神聖なる魂

星6 / 光属性 / 天使族 / 攻2000 / 守1800

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地に存在する光属性モンスター2体を

ゲームから除外した場合に特殊召喚する事ができる。

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、

相手のバトルフェイズ中のみ全ての相手モンスターの攻撃力は30

0ポイントダウンする

クリッター

レベル3闇属性悪魔族攻1000守600

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、

自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を手札に加える。

明日香「バトルよ 神聖なる魂でメルティウスに攻撃」

明日香2200

明日香「何ですって・・・私のライフが」

星五「オネストの効果手札を捨てて戦闘時に相手の攻撃力分アップする」

レベル4光属性天使族攻1100守1900

自分のメインフェイズ時に、フィールド上に表側表示で存在する

このカードを手札に戻す事ができる。

また、自分フィールド上に表側表示で存在する光属性モンスターが戦闘を行うダメージステップ時にこのカードを手札から墓地へ送る

事で、

エンドフェイズ時までそのモンスターの攻撃力は、
戦闘を行う相手モンスターの攻撃力の数値分アップする。

明日香「くっ……メイン2に早すぎた埋葬を発動」

明日香 1400

星五「すみません魔宮の賄賂ワンドローお願いします」

魔宮の賄賂

カウンター罠

相手の魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。
相手はデッキからカードを1枚ドローする。

星五「そしてメルティウスの効果で1000回復します」

星五 5000

星五「そしてメルティウスをリリースしてボルテニスを特殊召喚一
番右のカードを破壊します。」

星五（それにしてもこいつ……光属性には見えないな……睨ま
れた気がするけど

気のせいだよな……）

明日香「ターンを終了するわ……」

星五「俺のターン 手札から大嵐を発動 俺の勝ちだ帰るぞ十代」

明日香「・・・何で攻撃しないのよ」

星五「だって・・・痛いだろ？それだけだ」

明日香「悔しい・・・舐め切った態度で最後は同情されて攻撃されないなんて・・・」

絶対に次は倒して見せるわ・・・」

V S 明日香（後書き）

うん 十代が空気だ

無理やりタッグにして十代の出番を作るか

十代とのデュエルを1話づつ挟むかどっちかかにしないと

月一テスト（前書き）

今更ですが こんなものにごお気に入り登録して下さい方がいました

ありがとうございます。

月一テスト

星五「おはよう十代教室行こうぜ」ってん？」

翔「どうか死者蘇生様この翔めをお救い下さい」

十代「ぐがーぐがー」

星五「翔・・・死者蘇生にご利益なんてあるのか？っていうか十代起きろよ」

翔「信じれば救われるはずッス」

十代「まだ眠いぜ」

.....アカデミアへの道.....

星五「ん？おばさんが車押ししてるな手伝ってこうぜ（あれはトメさんか）」

十代「俺困ってる人を見たらほっとけないんだよな　おばさん俺達手伝うぜ」

トメ「今日はテストなんだろう？いいのかい？」

十代「俺は筆記は捨ててるからな」

星五「勉強も得意だから遅刻しても問題ないよ」

トメ「2人ともありがとうね」

大徳寺「二人してテストに遅刻なんてどうなってるのにゃー」

星五「大徳寺先生すみません」

十代「ごめん先生」

明日香「30分も遅刻とは筆記試験なんて眼中にないということ？
・・・どうして」

- - - - - 10分後 - - - - -

十代「zzzzzzzzzzzzzzzzzzzz」

星五「大徳寺先生終わりました」

明日香「なんですって？2人が入ってから10分しかたってないのに・・・？」

大徳寺「ず・・・随分早いのにゃー本当に良いのにゃ？」

クロノス「な・・・なんてことなノーネこうなったら2人一緒に潰すんでスーノ」

- - - - - 実技デュエル会場 - - -

十代「え？タッグデュエル？」

クロノス「わたくしーを倒した2人でーはただのレッド生徒じゃ相手にならないノーネ

しかーしブルーとレッドでは差が開き過ぎてるノーデ均
衡させる為に

タッグデュエルという結論に至ったノーネ」

星五（明日香と準で一気に俺たちを潰そうって作戦か面白い・・・）

クロノス「ルールの説明をさせてもらうノーネ

ライフは8000手札は別

場墓地除外は共有ルールで行うノーネ」

明日香「万丈目君よろしくね（この前の復讐をしてやるわ・・・）」

万丈目「ああ（明日香君とタッグが組めるなんて・・・しかもこいつに復讐が出来るなんて最高だ）」

星五「十代一緒に頑張ろうぜ」

十代「おおっ」

「デュエル」

星五「俺のターン ドロー」

星五「智天使ハーヴェストを召喚 カードをセットしターンエンド」

明日香「私のターン 神の居城ヴァルハラを発動 モンスターをセ
ットしてターンを終了するわ」

十代「俺のターン Eエマージェンシーコール発動 E・ヒーロー
エアーマンを手札に」

エマージェンシーコール

自分のデッキから「E・HERO」と名のついたモンスター1体を
手札に加える。

十代「エアーマンの効果でE・ヒーロー ザビートを手札に バト
ル ハーヴェストで攻撃」

エアーマン

レベル4風属性戦士族攻1800守 300

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、

次の効果から1つを選択して発動する事ができる。

- 自分フィールド上に存在するこのカード以外の
「HERO」と名のついたモンスターの数まで、

フィールド上に存在する魔法または罫カードを破壊する事ができる。

- 自分のデッキから「HERO」と名のついた
モンスター1体を手札に加える。

クリッター 守備600 破壊

十代「エアーマンでダイレクトアタック カードをセットしてター
ンエンド」

明日香&準6200

準「俺様のターン 前線基地発動 Zメタルキャタピラーを守備表
示で特殊召喚

モンスターをセットしてターンエンドだ」

前線基地

永続魔法

1ターンの1度、自分のメインフェイズ時に
手札からレベル4以下のユニオンモンスター1体を特殊召喚する事
ができる。

Zメタルキャタピラー

レベル4 光属性機械族 攻1500 守1300

1ターンの1度だけ自分のメインフェイズに装備カード扱いとして
自分の「X-ヘッド・キャノン」「Y-ドラゴン・ヘッド」に装
備、

または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で装備カード扱いになっている時のみ、

装備モンスターの攻撃力・守備力は600ポイントアップする。

(1体のモンスターが装備できるユニオンは1枚まで。

装備モンスターが戦闘によって破壊される場合は、
代わりにこのカードを破壊する。)

星五「俺のターン リバースカードオープン 大嵐 前線基地とヴ
アルハラを破壊しろ」

大嵐

フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

星五「ハーヴェアストを召喚しバトル ハーヴェアストでキャタピラー
に攻撃」

星五「ハーヴェストで伏せモンスターに攻撃」

Vタイガージェット

通常モンスター

レベル4 光属性機械族攻1600守1800

星五「破壊できないな・・・オネストを捨ててハーヴェストの攻撃力を上げて破壊」

星五「エアーマンでダイレクトアタック」

明日香&準4400

星五「メイン2 死者蘇生でオネストを蘇生 オネストの効果でオネストを手札に戻しターンエンド」

死者蘇生

自分または相手の墓地に存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

明日香「私のターン モンスターをセット カードをセット ターンを終了するわ」

十代「よっしゃー俺のターンだ 沼地の魔神王で融合を手札に加える」

レベル3 水属性水族攻 500守1100

このカードを融合素材モンスター1体の代わりにする事ができる。
その際、他の融合素材モンスターは正規のものでなければならぬ。
また、このカードを手札から墓地へ捨てる事で、
デッキから「融合」魔法カード1枚を手札に加える。

十代「E・ヒーロー ザビートを召喚 バトル ザビートで伏せモ
ンスターに攻撃」

ブレードスケーター

レベル4 地属性戦士族攻1400守1500

十代「3体でダイレクトアタック」

明日香「きゃああああ」準「がああああああ」

パチパチパチパチパチパチパチ

「あのレッド2人勝ちやがった」

「すげえ」

鯨島校長「ブルー生徒を倒す強さ文句なく2人ともラーイエローに
昇格です」

十代「いや止めとくよ俺は赤が好きだぜ」

星五「俺はカイザーの座を狙っているカイザーの座を奪うまでカイ
ザーを倒すまでは

昇格しないつもりです 環境が良くなって鈍っても困るので

（あれ？これ宣戦布告になるのか？）「

十代「おお星五ならカイザーにだって勝てるかもな　でもアカデミアの1番の座は譲らないぜ」

星五「ではそういうことでレッド寮のままでお願いしますさようなら」

月一テスト（後書き）

次回は・・・タイタン戦

若本戦いやタイタン戦

星五「うん・・・どうしてこうなった　何で俺は怪談を聞いてるんだ・・・」

星五（怪談とか嫌だああ無理だってこれには介入したくなかったあでも若本さんの声を・・・）

星五（あ大徳寺先生が引いた・・・どうでも良いけど
この世界でもドラゴンレアな筈だけど誰が持ってたんだ）

大徳寺「廃寮で闇のデュエルが行われているらしいニャー」

十代「明日その寮に行ってみようぜ」

隼人「行ってみるんだな」

星五「よし行ってみるか」

・・・次の日・・・

明日香「この寮は危ないから近づいちゃだめよ　私の兄もここで行方不明になったんだから」

十代「迷信かどうかは行ってみれば分かるぜ」

星五「俺やつぱり残るよ　木の後ろに女王様がいるみたいだし

その護衛でもね不審者の気配もするしそういうことで
お互いに何かあったらPDAに連絡を入れよう」

十代「じゃあ俺たちは行ってくるからな」

星五（じゃあばれると拙いから隠れてるかな・・・）

タイタン「あの娘を餌にターゲットをおびき寄せるとするかな」

星五「こんなところで何をやっているんですか？ 渋い声のおじさん」

タイタン「なにい 間違えなく貴様らは廃寮に入った筈じゃあ

まあいい この小僧ごと餌にするまでだ」

星五「俺を餌にするのは良いけどそのためにはデュエルをしないと
なあ」

タイタン「いいだろうただし私とのデュエルは 闇のゲームだ 敗
者は闇に包まれる」

星五「面白そうだな 来いよ だけどその前に

十代 不審者を発見した 寮から出て来い」

タイタン「なにいどういうことだ」

星五「嫌な予感がしたんでな2手に別れて調べたんだ」

タイタン「まあいい 貴様の仲間が来る前に倒してしまえば問題な
い」

「デュエル」

タイタン「先手を取らせてもらう」

タイタン「召喚僧サモンプリーストを召喚だあ」

レベル4 闇属性魔法使い族攻 800 守1600

このカードはリリースできない。

このカードは召喚・反転召喚に成功した時、守備表示になる。

1ターンに1度、手札から魔法カード1枚を捨てる事で、

自分のデッキからレベル4モンスター1体を特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは、そのターン攻撃する事ができない。

タイタン「サモンプリーストは召喚時守備表示になる

さらに死者蘇生を捨て ジェノサイドキングデモンを

デッキから特殊召喚する」

ジェノサイドキングデモン

レベル4 闇属性悪魔族攻2000 守1500

自分フィールド上に「デモン」という名のついた

モンスターカードが存在しなければこのカードは召喚・反転召喚できない。

このカードのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ毎に800ライフポイントを払う。

このカードが相手のコントロールするカードの効果の対象になり、その処理を行う時にサイコロを1回振る。

2・5が出た場合、その効果が無効にし破壊する。

このカードが戦闘で破壊した効果モンスターの効果は無効化される。

タイタン「カードをセットしターン終了だア」

星五「俺のターンだ ドロー 未来融合 フューチャーフュージョ
ン発動

真紅眼の飛竜2枚とレッドアイズダークネスメタルドラゴン
2枚

とマテリアルドラゴンを墓地に送り俺のターンで数えて2タ
ーン後

F G Dを特殊召喚まあお前が2ターン持った場合の話だけど
な」

未来融合

デッキから融合素材を墓地に送り2ターン後融合召喚

タイタン「何を貴様こそ簡単にやられたらつまらんぞオ」

星五「アックスドラゴニュートを通常召喚 更に除外してダークネ
スメタルドラゴンを

特殊召喚 ダークネスメタルドラゴンの効果で マテリアル
ドラゴンを特殊召喚

バトルだダークネスメタルでキングデーモンに攻撃」

レッドアイズダークネスメタルドラゴン

攻撃2800

場からドラゴン族を除外して特殊召喚できる

1ターンに1度手札か墓地からこれ以外の

ドラゴン族を特殊召喚

マテリアルドラゴン

攻撃2400

効果ダメージを回復効果に

手札1枚でモンスター破壊効果を無効に

タイタン「ひっかかったなあ 聖なるバリアーミラーフォース 貴様のモンスターは全滅だア」

星五「マテリアルドラゴンの効果 手札を1枚捨ててモンスターを破壊する効果を無効にする」

タイタン「なんだとお」

2800 - 2000 = 800 4000 - 800 = 3200

タイタン3200

タイタン「ぐぬぬ・・・ふん構わんさ」

星五「マテリアルドラゴンでプリーストに攻撃」

2400 vs 1600 召喚僧サモンプリースト破壊

星五「俺はこれでターンエンドだ」

タイタン「地獄を見るがいい 私のターンだ ターンエンドだ」

星五「…………俺のターン（ゴーズ？ゴーズなのか？まあいいか

これで終わってもつまらないからターンエンドしとこ)

俺もターンエンドだただしエンドフェイズに2体の飛竜の効
果で2体の

ダークネスメタルドラゴンを特殊召喚」

明日香「うーん・・・ここは・・・あのドラゴン・・・兄さん？い
や・・・違う

星五がデュエルをやっているのねそうよね・・・
兄さんは行方不明なんだから・・・」

星五「ん？明日香目が覚めたのか　こんなカード使って期待させて
悪かったな

事情は・・・まあすぐ終わるからデュエルの後話す」

タイタン「まだ分からんぞオこうなったらこの千年パズルを使い貴
様を操ってやる」

星五「明日香目を睨れあの光を見るな」

タイタン「なにい私の術を見切っただとオ」

星五「良いこと教えてやるよ　洗脳できる千年アイテムは千年錠と
千年ロッドなんだよ　さぁ続けようぜ」

タイタン「ぐう・・・なんだと・・・ドロー　カードをセットし
ターンエンドだア」

??「もう一息だよマスター」「最後までしっかりしろよリーダー」
「頑張ってお兄ちゃん」

星五「何か幻聴が聞こえる気のせいだろうなんか金髪ストレートの女の子と」

黒い肌でチャラ男っぽいのと男の子が見えるけど
マテリアルドラゴンとレッドアイズブラックドラゴンと
レッドアイズワイバーンな筈がないきつと幽霊だ廃寮前だし
それぐらい出るさ」

マ「幽霊なんてひどいよー」黒「俺達は精霊なのになー」飛「幽霊じゃないもん」

星五「・・・やっぱり精霊がいきなりで悪いがすぐ『マインド・ハック』を発動する準備を
しておいてくれ口を割らなかった時の為にな」

マ「わかったよ」黒「任せとけ」飛「ボク頑張るよ」

タイタン「どうしたあ怖気づいたかあ？」

星五「そんなわけないだろ 俺のターン 未来融合の効果でFGDを特殊召喚

バトル」

十代「星五 大丈夫か？」

星五「ん十代来たか 余裕だよ ダークネスメタルでダイレクトアタック」

タイタン「うわあああああ ぐううおのれえ」

星五「いけ マテリアルドラゴン」

マ「はい頑張っちゃうよー」

タイタン「ぐあああああ」

タイタン0

星五「おいタイタン偽の闇のゲームをやるって事は
雇われたんだろう 雇い主は誰だ」

タイタン「依頼人の名前は絶対に言わんぞお・・・」

星五「やれ3人とも」

マ「はいはい」 黒「やっちゃうぜー」 飛「まだ巧く出来るか
分からないけどやってみるよ」

「「「マインドハック」」」

タイタン「イライニンノナハ クロノス・デ・メデイチ ダ」

星五「よし 録音完了つと 闇の呪縛でこいつを押さえつけて今度
アカデミアに押し付けるか

つてことで発動は任せるよ（退学デュエルで証人になるし確
か領収書持ってたよな

回収しとこ」

明日香「ちょ・・・ちよつと何で私を助けたの？」

星五「は？仲間だから助けたそれ以外になにがあるんだ？」

明日香「でも校則を破ってまで・・・」

星五「罰が怖くて仲間を救えるかよ さっさと帰らないとやばいんじゃないのか

十代 隼人 翔 俺たちも帰るぞ」

十代「やべえいそがなきゃ」

隼人「置いてかないでほしいんだな」 翔「ちよつと皆置いてかないでよー」

若本戦いやタイタン戦（後書き）

タイタンに一人2役させるわけにも行かないので

結局シングルに次回はワイトデッキで十代と戦います

一度紹介したカードは端折って説明を追加

ただでさえ駄文なのに3人も追加するなんて何を

考えてるんでしょう私は

修正

ダークネスメタルは既出だったので変更されました

精霊たちの紹介

精霊たちの紹介

マリア

マテリアルドラゴンの精霊

金髪ストレート

性格 優しい 素直

好きなもののエクレア

使用デッキキュアバーン

趣味デュエル

一人称私

星五の呼び方
マスター[illegible]

真紅眼の飛竜の精霊

黒兎

コクト

くろつさぎと呼ばれると怒る

髪黒 短髪

性格負けず嫌い

好きなものココア

使用デッキレッドアイズ

趣味デュエル

一人称 ボク

星五の呼び方 お兄ちゃん

黒牙

コクガ

髪黒ロング

性格チャラ男

好きなものチョコレート

使用デッキ レッドアイズ融合

趣味デュエル

一人称オレ

星五の呼び方
リーダー

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

精霊たちの紹介（後書き）

星五「おい何だこいつらと俺のやる気の差は っていうか十代のデュエルはどうしたんだ」

作者「3人もいればこれぐらいにはなる 十代とのデュエルはダメージを受けなくてある程度しっかり戦ってくれるデュエルを引けないから休憩に」

星五「あノーダメ意識してやってたんだ」

作者「遊戯王のオリ主は無双してナンボだと思っている」

星五「あつそどうでも良いけどさっさと書けよ もうサボってるじやねえか」

作者「申し訳ありませんでした善処します」

再び十代戦

十代「せーいーごーデュエルしようぜー」

星五「子供かお前はでもそういえばこのデッキでデュエルする約束してたな

じゃあやるか」

十代「おお行くぜえ」

「デュエル」

星五「俺のターン モンスターをセットしターンエンドだ」

十代「俺のターンだ 沼地の魔神王を捨てて融合を手札に加える

さらに クレイマンを召喚 ミラクルフュージョン

沼地の魔神王とクレイマンを融合しサンダージャイアントを融合召喚」

星五「１ターンで融合するなんて 流石十代だな（まあ普通だけど社長とかカイザーの

初手３枚とか）」

沼地の魔神王

手札から捨て融合を手札に加える
代用融合素材になる。

サンダージャイアント

2400 / 1500

スパークマン＋クレイマン

融合召喚でしか召喚できない
手札1枚捨てることで表側表示の
もとの攻撃力がこのカードより
低いモンスターを1体破壊する。

十代「バトルだ サンダージャイアントでセットモンスターに攻撃」

星五「残念 このカードはライトロードハンターライコウ サンダー
ジャイアントを道連れにしろ」

ライトロードハンターライコウ

フィールド上のカードを1枚破壊することが出来る

自分のデッキから3枚墓地に送る

(ワイトキング ホワイト ゴブリンゾンビ)

十代「くっ・・・俺はこれでターンエンドだ」

星五「俺のターン モンスターをセットしターンエンド」

十代「俺のターンだ カードを3枚セットしターンエンド」

星五「俺のターン モンスターをセットしターンエンド」

十代「俺のターン 増援を発動 ワイルドマンを手札にさらに伏せ
カードオープン 融合

ワイルドマンとエッジマンを融合　ワイルドシャギーマンを融合召喚　更に戦士の生還

でエッジマンを手札に　バトル　シャギーマンで2体のモンスターに攻撃」

ワイルドシャギーマン

2600/2300

融合召喚でしか召喚できない

全てのモンスターに1回づつ攻撃できる

星五「1体目はワイト夫人　2体目はピラミッドタートル　ワイトキングを特殊召喚する」

ワイトキング　3000

?/0

ワイトキング　又はワイトの数だけ攻撃力を1000あげる

十代「くっ・・・俺はこれでターンエンドだ」

星五「俺のターンプリズマーを召喚　アンデットウォーリアーを見せワイトを墓地に　バトル」

プリズマー

1700

融合デッキから融合モンスターを見せ素材を1体墓地に送る
エンドフェイズまで素材と同名モンスターとして扱う

ワイトキング3000↓4000

星五「ワイトキングでシャギーマンに攻撃」

4000 vs 2600

十代2600

十代「流星星五だぜ・・・すげえ・・・でも・・・負けないぜ」

星五「更にプリズマーで攻撃 ターンエンドだ」

2600 - 1700 900

十代「やっぱり星五はつええな・・・でも俺は最後までこのドローに掛けるぜ」

ドロー・・・（ミラーフォース・・・これなら・・・）
カードをセットし バーストレディを召喚ターンエンドだ」

星五「（明らかに誘っているな・・・）ドロー 俺はおろかな埋葬を発動

馬頭鬼を墓地に送る。 馬頭鬼の効果発動 墓地から除外すること
ことで

自分の墓地のアンデット族モンスター1体を特殊召喚
ワイト夫人を守備表示で特殊召喚する」

ワイトキング4000 ↓ 3000

星五「バトル ワイトキングでバーストレディに攻撃」

十代「よし 聖なるバリアーミラーフォース発動 これで星五のワイトキングは・・・」

ワイトキング（攻撃） ワイト夫人（守備）

十代「何っワイトキングが破壊されてない……」

星五「ワイト夫人の効果 このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、

フィールド上に表側表示で存在すワイト夫人以外のレベル3以下のアンデット族

モンスターは戦闘によっては破壊されず、魔法・罫カードの効果も受けない

当然罫であるミラーフォースの効果は受けないから 破壊されなかったわけだ」

十代「くそ……俺は又負けたのか……悔しいぜ……今度こそ俺が勝つから

又やろうな 星五」

星五「おういつでも相手になるぜ」

再び十代戦（後書き）

今日地震がありましたね

何か被災地でないからか地震に動じなくなってしまったのが怖い
です。

倫理委員会突入

倫理「開けるここを開ける」

星五「嫌ですよ面倒臭い」

倫理「速やかに開けないとこのドアを爆破する」

星五「勝手にしてください爆破したらちゃんと直して行って下さいね」

倫理「貴様我々を侮辱するのか」

星五「だから用があるなら勝手に爆破して下さいよそれとも開けてメリットでもあるんですか？」

倫理「我々は貴様を連行しに来たのだメリットなどあるわけ無かるう」

星五「だったらさっさと拉致でもすればいいじゃないですかまあこんなボロい寮で爆破

なんてしたら全壊すでしょうけどね 用が終わったなら帰ってください

それと・・・爆破なんてしなくても寮監に頼めば合鍵位出してくれるんじゃないですか？」

倫理「あっ・・・」

星五「そんなことも気が付かないなんてバカですか」

倫理「貴様・・・ともかく・・・小波星五 遊城十代 丸藤翔 前
田隼人

首謀者の小波星五だな？ お前たちを査問委員会に連行する」

星五「大体予想出来ましたよそのことで持つていくものがあるんで
ちよつと待つて下さい」

- - - - - 査問委員会 - - - - -

倫理「本日も未明 小波星五以下4名は閉鎖された特別寮に入り内部
を荒らした調べは付いて「嘘だな」

なんだと？」

星五「調べが付いているなら知ってますよね 俺が入っていないこ
とも」

倫理「何っ？」

十代「そういえば星五は明日香を見かけたから見張つてたな」

隼人「入ってないんだな」

倫理「首謀者なら有利な証言をさせてる可能性がある」

十代「なあ何でも言うこと聞くからチャンスをくれよ」

クロノス「ならば別のペナルティーの方法を提案するノ」待つて下
さい」

星五「その前にある証拠を提出したいです」

校長「ある証拠・・・とは？」

星五「この3つです」

レコーダー

領収書

タイタン

倫理「な・・・なんだこの中年男は」

星五「侵入者・・・つまり俺がこうなった原因であり 貴方達が見逃した人物です

そしてレコーダーがこの男の声が入っていてある人物を告発しています

最後の領収書は彼の書いた領収書 これにも依頼人の名が書かれています。

ここで公開しても良いですか？クロノス先生」

クロノス「だあだだだだだめなノーネ」

星五「あれ？クロノス先生の名前が書かれてるわけないのに

何でそんなに慌ててるんですか？もしかしてクロノス先生が？まあ困るならチャンスをくれませんかねチャンスさえくれればこれは今公開しないのですが」

クロノス「なら制裁タッグデュエルで決めるノーネ」

星五「タッグ？いえシングルでお願いします 首謀者が俺なら俺だけで十分でしょう」

仕方ないってことも証明されますし」

クロノス「しかーしそれでは簡単になりすぎるノーネ」

星五「なら・・・相手は誰でも良いですよ クロノス教諭が又恥を晒しても」

勿論カイザー亮さんでもね・・・」

明日香「ちよつと星五 あなた退学する気？」

星五「ん明日香来てたのかいや勝つ気でいるよ あの時言っただけだ カイザーの座を奪うと」

明日香「でも亮の実力じゃ・・・」

星五「やってみなきゃ分からないだろ？まあ負けたら負けたで1年後又くればいいさ」

校長「仕方ないですねではデュエルは1週間後となります」

星五「退学する気は微塵もありませんから」

倫理委員会突入（後書き）

うん なんか暴走し過ぎた 書けるかなカイザー戦

制裁デュエル（前書き）

何で暴走しちゃったんだろ

十代とカイザーのデュエルは翔が制裁デュエルをやらないからカット
隼人は星五が出しゃばるわけにはいかない無いようなのでカット

制裁デュエル

星五「先行は亮さんでお願いします。亮さんが扱うというサイバーデッキは後攻有利らしいので

それとデュエルの内容に関しては全力でお願いしますね
いくら退学が掛ってるからといって

手を抜かれるのは嫌ですから」

亮「全力でやることは当然だ では始めるぞ」

「デュエル」

亮「俺のターン サイバーフェニックスを召喚 カードを2枚セツトしターンエンドだ」

フェニックス

機械族1体を対象に取る魔法罫を無効に

戦闘破壊で1ドロー

星五「俺のターンです ドロー 大嵐を発動します
破壊されたカード（ミラーフォース サイクロン）」

亮「くっ・・・問題ない」

星五「モンスターをセツトし カードを3枚セツトしターンを終了します」

亮「デュエルはこれからだ ドロー 手札から大嵐を発動する」

星五「（返された・・・マジックジャマーならあるけど・・・攻撃

ならこいつで封じれるし

この手札も捨てたくないしスルーするか」

亮「ほう・・・マジックジャマーを発動しなかったのかまあいい
サイバーフェニックスをリリースし サイバーオーガを召喚
死者蘇生でサイバーフェニックスを特殊召喚 バトルだ
サイバーオーガで伏せモンスターに攻撃」

星五「このカードはマシユマロン 破壊されません そして効果に
より1000ダメージ」

亮3000

マシユマロン

戦闘破壊耐性

裏側表示で攻撃された場合相手に1000のダメージ

亮「くっ・・・まだまだだ ターンエンド」

星五「俺のターン・・・ターンエンドだ」

亮「どうした 何もしないのか？ 俺のターン モンスターをセッ
トターンエンド」

星五「俺のターン（なかなか引けないな・・・）ターンエンド」

亮「いくぞ 俺のターン シャインエンジェルを反転召喚
モンスターをセット カードをセットターンエンドだ」

星五「俺のターン・・・ターンエンド」

亮「そろそろ行くぞ 俺のターン メタモルポットを反転召喚
お互いに手札をすべて捨て5枚ドローカードを2枚セットし
ターンエンド」

星五（ワー上級モンスターが終わったら罠だらけだ）俺のターン
モンスターをセットしカードを3枚セットターンエンド
いつもみたいに思うように攻めれない 流石亮さんですね」

亮「ふっ・・・俺も久しぶりに楽しいデュエルになりそうだよ 俺
のターン

抹殺の使徒を発動伏せモンスターを破壊しろ メタモルポット
をリリースし

サイバードラゴンを召喚 カードをセットしターンエンド」

星五「俺のターン・・・カードをセットしターンエンド」

亮「俺のターン プロトサイバードラゴンを召喚 光の護封剣を発
動 ターンエンド」

十代「どっちも全然攻めねえデューエルだ」

星五「このタイミングで 護封剣ですか・・・ドロー・・・これは・
・

（死者蘇生・・・まさかこれを読んで？いや・・・まさかな）
ターンエンドです」

亮「俺のターン プロトサイバードラゴンを守備表示に変更 ター
ンを終了する」

星五「俺のターンエンドロー モンスターをセットしターンエンドです」

亮「俺のターン バトル サイバーオーガで伏せモンスターに攻撃」

智天使ハーヴェスト

カウンター罠を手札に加える

星五「マジックジャマーを手札に加えます」

亮「ターン終了だ」

星五「俺のターン サイクロンで一番右のカードを破壊します（それにしても・・・

融合引かないのか？せっかくヘルポリマーを伏せているのに）
ターンエンドです」

ヘルポリマー

罠カード

相手が融合召喚に成功したとき自分の場のモンスター1体をリリースしそのコントロールを得る

万丈目が十代のメタとして使用した

亮「この瞬間光の護封剣は破壊される 俺のターン プロトサイバードラゴンを

リリースしサイバーオーガを召喚 ターンエンドだ」

星五「俺のターン手札から死者蘇生を発動 光神機轟龍を特殊召喚
カードをセットしターンエンド」

亮「ほお攻撃しないのか 俺のターンサイバードラゴン サイバー
オーガ2体 シャインエンジェル
を守備表示に変更ターンエンドだ」

星五「俺のターン バトル 轟龍でサイバーフェニックスに攻撃だ」
サイバーフェニックス 攻撃力1200 轟龍2900
2900 - 1200 = 1700 3000 - 1700 = 1300

亮1300

亮「サイバーフェニックスの効果を発動 戦闘破壊されたことによ
りカードドロ」

星五「ターンを終了します」

亮「このドローに全てを賭ける ドロー 融合呪印生物光を召喚
サイバードラゴンと

呪印生物を墓地に送りサイバーツインドラゴンを特殊召喚」

星五（融合召喚じゃないからヘルポリマーを使えないと）

亮「ターンエンドだ」

星五「俺のターン ありがとうございました バトル 轟龍でシャ
インエンジェル

に攻撃 轟龍には貫通能力があります」

亮「ぐつがああああああああ」

亮0

亮「何故だ・・・？俺はなぜ負けた・・・？」

星五「亮さん 貴方 いつもデュエルを楽しんでいますか？」

亮「何？」

星五「俺は楽しんでますよ。 ドローする瞬間攻撃する瞬間ワクワクします」

亮さんはカイザーのプレッシャーで楽しめなかったんじゃないんですか？」

亮「デュエルを楽しむか・・・デュエル中に言った通り最近は楽しめていなかったかもしれないな」

星五「今度は『カイザー亮』としてではなく『丸藤亮』として全力でデュエルしてください」

亮「新カイザー星五 おめでとう」

星五「止めて下さい俺はまだ学園のトップに立っていないカイザーを名乗るわけにはいかない

俺がカイザーを名乗るとき、それは全力の丸藤亮を倒した時です。

それまではカイザーの称号は学園に預けておきます」

校長「どちらも最後までカードを信じた素晴らしいデュエルでした

よって小波君の退学は免除となります」

十代「おお やったな 星五 やっぱりお前は最高だぜ」

パチパチパチパチパチパチ

制裁デュエル（後書き）

三沢・・・そういえば星五が一位になったので更に空気
これには出てませんでしたね モブ戦にするしかないのでしょうか

人造人間

――新年レッド寮食堂――

十代「俺はクレイマンを攻撃表示で召喚　クレイマンで攻撃」

星五「餅うめえな」

隼人「あちち・・・」

ガシャーン

??「助けて下さい　サイコショッカーに追われてるんです」

大徳寺「君は　オベリスクブルーの高寺くんだにゃー」

星五「サイコショッカーって・・・コスプレか何かか？まさか精霊なんてことは

（いや俺にも憑いてるけどさ）」

マリア（ちょっとー憑いてるって何？人を幽霊みたいに）

コクガ（ちえーひどいっすよー）

コクト（ふーんだ）

高寺「うわああ生贄になんかなりたくない助けてー」

十代「皆追いかけるぞ」

星五「憑いてるなんていつてすまなかった サイコショッカー探してくれ」

- - - - 送電施設 - - - -

十代「そんなに蘇りたいのなら俺を生贄にし」十代「ここは俺にやらせてくれ」

星五「ということでデュエルだ 人造人間 俺が勝ったら大人しくしろよ」

ショッカー「確かに君の方がふさわしいかも知れないだろう」

「デュエル」

ショッカー「私のターン ダークゾーンを発動 カードを2枚セツトしターンを終了する」

星五「俺のターン 手札から大嵐を発動」

ショッカー「この瞬間 終焉の焰を発動 黒焰トークンを特殊召喚だ」

星五「俺はアックスドラゴニートを召喚 バトル トークンに攻撃 ターンエンドだ」

アックスドラゴニート 攻撃したら守備表示に

ショッカー「私のターン 増援を発動 終末の騎士を手札に

これが 復活の第一歩だ 黒焰トークンをリリースし
私自身を召喚」

十代「何っサイコショッカーが実体化した」

星五「俺消えてないから完全ではないみたいだな」

ショッカー「バトル アックスドラゴニユートに攻撃だ

フフフこれで私の願いが叶うターンエンド」

星五「まだ分からないぜ 俺のターン 真紅眼の飛竜を召喚すまないコクト

飛竜を除外しレッドアイズダークネスメタルドラゴンを特殊
召喚だ」

レダメ

場のドラゴンを除外して特殊召喚できる

1ターンに1度手札墓地からレダメ以外のドラゴンを特殊召喚

星五「ダークネスメタルドラゴンの効果で手札からホワイトホーン
ズドラゴンを特殊召喚

お前の終焉の炎」

ホワイトホーンズドラゴン

召喚特殊召喚時魔法を5枚まで除外しその数だけ攻撃力を300ポ
イントアップする

星五「バトルだ ホワイトホーンズドラゴンで ショッカーに攻撃」

ホワイトホーンズドラゴン3100

人造人間ショッカー 2400

ショッカーLP3300

星五「さらにダークネスメタルのダイレクトアタック ターンエンド」

ショッカーLP500

ショッカー「ぐああ私の夢があああ 私のターン ダークゾーンを発動 モンスターをセットだ」

星五「俺のターン 真紅眼の飛竜を召喚（さっきはごめんな コクト」

コクト（又召喚してくれたから良いよお兄ちゃんでも今度はちゃんとやってよ？）

星五「（ありがとう）さらにダークネスメタルの効果で マテリアルドラゴンを特殊召喚

（頼んだぞマリア）」

マリア（ギリギリで出れて良かった―マスターの為に頑張るよー）

星五「バトルだ 飛竜で攻撃」

コクト（とぉー）

星五「これで最後だ マテリアルドラゴンでダイレクトアタック」

マリア（えーい）

シヨツカー「ぐあああああ」

シヨツカーLPO

星五「逃がすか 光の護封剣 サイコシヨツカーを封じる」

シヨツカー「何い・・・」

星五「お前を放置すると悪行をしそうだからブラックコア サイコシヨツカーを除外しろ」

シヨツカー「ぐおおおオノレオノレ・・・」

十代「何が・・・何が起きてるんだ？」

星五「ああ 俺も精霊を持ってるんだ 精霊の力で実体化して封印したところだ」

十代「精霊？精霊ってハネクリボーみたいなやつのことか？」

星五「ああ俺の精霊は マテリアルドラゴン 真紅眼の黒竜 真紅眼の飛竜だ

まあさくし・・・大きさの都合で人間の姿になってるけどな」

十代「（さくし・・・？）へえー星五も精霊を持ってるとは思わなかったぜ」

大徳寺「今日は凄い日だにや・・・1日で4人の精霊が見れるなんて」

星五「さて解放された3人を連れてレッド寮に戻るか 餅食い直そうぜ」

人造人間（後書き）

星五「あれ4人？」

ハネクリボー「くりくりー」

星五「えっと自分には実体化する力がないから精霊が見える人間にしか見えない」

ハネクリボー「くりい・・・」

星五「気にするなよいつか強い力も持てるさ」

いきなりドロ（前書き）

テニス スマッシュエースとか何それ

ゴブリン 地味

2話カットです

ドラゴンデッキは何度も出てるので効果発動時と戦闘時に簡単に

いきなりドロー

- - - - - 購買部 - - - - -

星五「十代 今日俺の番だったよな」

十代「ああ星五から選んでくれ」

星五「トメさん チョコレートとエクレアとドローパンを2つね
後は自販機でココアを買ってっと・・・」

十代「ん？星五そんなに食うのか？俺もドローパン2つね」

星五「いやあいつら用にな」

十代「ああそうか」

星五「さてこれは何のパンかな」

バリバリ

星五「あんぱんと・・・クリームパンか うんうまいな」

十代「うへえ・・・甘栗と人参だ・・・」

明日香「2人でも外しちゃうとはね」

十代「明日香も卵パン好きなのか」

明日香「ち・・・違うわよ私はドローの練習を」

トメさん「ごめんねえ卵パンそこにはないのよここ最近卵パンだけ盗まれててね」

星五「別に良いですよ俺甘いもの食べたかったですし 十代より先に引くとしても

卵パンしか引けないし」

十代「でもその泥棒野郎は許せないぜ皆で捕まえようぜ」

・・・・・・・・犯人を追いかけて滝に・・・・・・・・

トメさん「大山ちゃんどうしちゃったんだい？」

大山「俺はドローの修行をしたもう誰にも負けない」

星五「俺も十代もドロー力で負けてるつもりはないぜ 今から証明してやるつか？」

大山「何ならデュエルで認めさせてやる」

「デュエル」

星五「俺のターン 苦渋の選択発動 真紅眼の飛竜2枚とレッドアイズダークネスメタルドラゴン

2枚とマテリアルドラゴンを選択 さあ選べ」

大山「なら俺はレッドアイズダークネスメタルドラゴンを選択する
手札に加える」

星五「（あーあやっちゃった・・・ごめんな飛竜又こんな役で）飛
竜を召喚 除外しダークネスメタル
を特殊召喚）

コクト（又すぐ除外される役かーひどいなー拗ねちゃうよー）

星五（あとでココア追加するから・・・ね？）ダークネスメタルの
効果で墓地から飛竜を特殊召喚

除外し2枚目のダークネスメタルを召喚 2枚目のダークネ
スメタルの効果でマテリアル

ドラゴンを特殊召喚 ターンエンドだ」

十代「相変わらずひでえことするなあ」

大山「確かに凄い引きの様だな だが俺も負けない 一撃必殺居合
いドロー発動」

一撃必殺居合いドロー

手札を1枚捨てる

フィールドのカードの数だけデッキの上から墓地に送り

カードをドローする

そのカードをお互いに確認する

そのカードが居合いドローだった場合フィールドのカードをすべて
破壊し

破壊された数だけ1000のダメージを与える

大山「引いたカードはカオス・グリードだ さらに俺は天よりの宝

札を発動 除外し2枚ドロ―

カードをセットしターンエンド」

星五「俺のターン ダークネスメタルの効果で飛竜を召喚（天よりの宝札は次元デッキ

じゃない限り有効じゃないと思うなアニメ効果はチートだけ
どそれより

コクトさっきはごめんなココア3杯あげるから許してくれ」

コクト「約束だよ？」

星五「バトル 飛竜で攻撃」

ATK1800

コクト「こーこあーのたーめにーがーんばーるぞー」

大山「うあああああ」

星五「これで最後だ マテリアルドラゴンで攻撃」

ATK2400

マリア「マッテマテにしてあげる」

星五（・・・マッテマテ？どこで覚えて来たんだこの子は）

大山「ぐあああああああ」

星五「俺のドロ―の方が強かったみたいだな」

大山「俺はなぜ負けたんだ・・・？」

星五「お前はドローに執着し過ぎたんだ ドローが好きなのはわかる
だが ドローに執着するあまり モンスターを壁にすること
もしなかった

最も壁にしたところで倒してるが 落ち着いて楽しんでみる
今度から一緒にドローパン食おうぜ」

大山「・・・ドローだけがすべてじゃないんだ・・・俺頑張ってみるよ」

サブ（前書き）

遊戯デッキで悩むところがあっ
ておまけ書こうと思っていたら0時
を過ぎていた
どういうことだ

サブ

- - - 授業中 - - -

モブ教師「強制効果と任意効果の違いを・・・星五答えてくれ」

十代「zzzzzzzz」

星五「十代起きろよ えつとどちらも名の通り強制発動の効果と任意で発動を選べる違いで

メリットとデメリットは 強制効果は他の効果がはさまれても発動できる代わりに

デメリット効果になる場合も発動する必要があつて任意効果は挟まれると

発動出来ない代わりにデメリットになる場合発動しないという事が出来ます。

効果がはさまれる例は ライトロードレイピアとライトロードビーストウォルフ

ライトロードエンジェルケルビムの効果のコストで墓地に送られた場合

ライトロードレイピアはタイミングを逃しますがウォルフは特殊召喚

しなければなりません。デメリットについては・・・たとえば自分の場にモンスターが1体 魔法罫が2枚 相手の場が空の時

雷帝ザボルグを召喚した場合は他にモンスターがないので強制的破壊効果によってザボルグを破壊しますが 氷帝メビウス

を召喚した場合は任意効果なので破壊せずにすみます

あ 強制と任意に違いは できるとする で見分けます。
どちらもわかりやすいよう同じシリーズから説明したんです
がどうですか？」

モブ教師「な・・・長いなわざわざ例をあげてくれありがとう座つ
て良いぞ」

星五「はいわかりました」

翔「速くて長くて全然理解できないっす」

星五「まあデュエルディスクが何とかしてくれるから理解しなくて
も大丈夫だろ」

- - - 授業後購買 - - -

星五「えっと今日は誰からだっけ」

星五「俺からだな ドロー やっぱり卵パンか」

十代「毎日最初に引くやつが当てるってすげえよな」

モブ「・・・・・・・・・・」

明日香「ちよつと貴方達3人ではじめに買ったら他の人が誰も卵パ
ンを食べれないじゃない」

星五「当たっちゃうんだから仕方ないだろ それに分らないから
こそその幻じゃないか」

明日香「そういう問題じゃないでしょ他の人も食べたいかもしれないじゃない」

星五「・・・食べたいならやるけど？しっかり言えるならだけど」

明日香「べ・・・別に私は食べたくなんかないわよ・・・まあどんな味が気になるけど・・・」

星五「じゃあいないんだな　いただきま・・・」

明日香「い・・・いるわよ私も卵パン食べたいこれでいいんでしょ」

星五「・・・そんな大声で言わなくても分かるよ」

明日香「あっ・・・」

「あの明日香さんが大声で・・・」　「天上院君も卵パン好きなのか」

明日香「星五・・・貴方謀ったわね・・・」

星五「はいはいしっかり言えて偉いねどうぞ　トメさん　エクレアとチョコと・・・」

ドローおにぎりね後ココアを3本買ってつと（前酷い使い方をしたからな・・・）」

十代「お前いつからDSに・・・」

星五「俺は面白そうな道突き進むだけだ（キリッ」

十代「いやそんなこと格好付けて言われても・・・」

星五「さて3人とも今日の昼だ」

マリア「わーい」「コクト」「おいしいー」「コクガ」「バリバリ」

星五「やめて！」

サブ（後書き）

ドローおにぎり 既出と思いつつも出してみる
パンがあるならこれでもいいかなって誰でも思いつくであろう
物体パンよりは合う食材も多いはずシヨコラとかパンの方がましな
ものもあるけど

神楽坂戦（前書き）

悩んでいたこと

？モブが操作してるとは言えデュエルキングのデッキにノーダメってどうなんだ

？デュエルキングのデッキとはいえモブ相手に初ダメージってどうなんだ

？っていうか完全再現したら絶対事故る

ということであつたという結論に至りました

神楽坂戦

翔・神楽坂「この最後のパックください」

翔・神楽坂「ムッ・・・このパックは僕のだ」

トメさん「ならデュエルで決めたらどうだい？」

- - -

- - - - デュエル省略 - -

神楽坂「どうして・・・どうして勝てない・・・そうか・・・デッキが悪いのか・・・

この学園でトップの星五のデッキをコピーできれば・・・
よしこれなら

よしお前 もう俺は負けないデュエルだ」

モブ黄「ふん 格下に負けたやつになんか負けないいいだろう」

- - - - 中略 - - - -

神楽坂「轟龍で攻撃 俺の勝ちだ」

モブ黄「うわあああああああ」

神楽坂「強い・・・俺がこんなに強い・・・」

星五「よあ・・・人と全く同じデッキを使って楽しそうだな」

神楽坂「何・・・星五・・・俺は全てのデュエルを研究しきっている俺なら・・・お前以上にこのデッキを引き出せるはずなんだ」

星五「・・・面白いことを言っただな　いいぜデュエルだ自分のデッキの弱点ぐらい

把握してるが・・・敢えてそのデッキでやってやるよ　違いを見せる為にな」

十代「おい星五　やめとけよ　こいつは本当に強くなったらしいぜ」

星五「持ち主である俺が負けるわけねえだろ　さ　始めようぜ」

デュエル

星五「先行は譲ってやるよ」

神楽坂「俺のターン　神の居城ヴァルハラ発動　効果でヘカテリスを特殊召喚　カードをセットし

ターンエンドだ」

星五「俺のターン　俺もヴァルハラを発動　智天使ハーヴェストを特殊召喚

天空聖者メルティウスを召喚　バトル　メルティウスで攻撃」

メルティウス1600　ヘカテリス1500

神楽坂3900

神楽坂「くっ・・・これぐらいどうってことない」

星五「さらにハーヴェストでダイレクトアタック」

ハーヴェスト1800

神楽坂2100

星五「カードをセットしターンエンド」

神楽坂「俺のターンだ 早すぎた埋葬を発動 蘇れヘカテリス」

神楽坂1300

神楽坂「ヘカテリスをリリースし光神機轟龍を召喚 この轟龍はエンドフェイズに破壊される

バトルだ 轟龍でハーヴェストに攻撃」

星五「カウンタートラップ攻撃の無力化 さらに手札からボルテニスを特殊召喚

リバーiscardとヴァルハラを破壊しろ」

神楽坂「俺が・・・俺が負けた・・・？何故だ・・・何故・・・完全に研究したはず・・・」

星五「人のデッキには自分の魂が入っていない そんなデッキで勝てるとも思っているのか？

デュエルが好きなら一度自分で作ってみろ 研究しつくしたお前なら

良いお前だけのデッキが出来るだろうよ」

神楽坂戦（後書き）

やっつけみたいですね
こっぴどくちやっぴです。

デュエルの内容は今度修正します。

星五の性格がおかしいのはおまけで変なスイッチが入ってしまった
ようです

恋する乙女

大徳寺「編入テストを受けてオシリスレッドに入った早乙女レイくんだニャー」

部屋は・・・確か星五君の部屋が1人だったニャー」

星五「はいわかりました レイよろしくな 楽しくしようぜ」

レイ「はい・・・」

-----星五・レイの部屋-----

星五「俺の部屋だけ一人で暇だったんだ 十代のところに行かなきゃ相手もないし

だから入ってきてくれて助かったよ それにしても綺麗な顔してるな

女の子みたいに・・・おっとこれは失礼だったなすまん」

レイ「ぼぼボクが女の子の筈ないだろ 気のせいだよきつと」

星五「ところでカイザー亮はどこに・・・」

十代「星五 レイ 風呂行こうぜ」

星五「おい十代ノックぐらいしろっていか人の部屋で脱ぐな」

レイ「ぼ・・・ぼくはいいよ」

十代「えー入ろうぜー仲間の証にさ」

星五「嫌がつてるのに無理に入れることないだろ それに1度でもデュエルをすればもう仲間だろ」

十代「そうかーしかたねえーなーじゃあ星五入ろうぜ」

星五「分かったからしたくは自分の部屋でやれ」

十代「じゃあ風呂場で合流な」

レイ「あ・・・あのありがとうな助けてくれて」

星五「事情は知らないけど（嘘）断るときはキッパリ断らなきゃダメだぞ」

レイ「うん・・・わかったよありがとう」

星五「じゃあ俺は風呂行ってくるからな」

.....数日後デュエルアカデミア
講堂.....

校長「ノース校との交流デュエルが・・・」

レイ（ふーん）

星五（丸藤亮・・・十代と一緒に居た眼鏡をかけた奴の兄でこのアカデミアのカイザーだった人だ）

レイ（えっ？も・・・もうカイザーじゃないの？）

星五（声が大きい デュエルをして俺が勝ってまあ俺自身がカイザーを名乗る資格がないから

カイザーの称号はアカデミアに預けている状態だ）

レイ（へえ 星五強いんだな）

星五（まあカイザーも全力を出し切れてなかったと思うしな
俺はまだまだだよ）

十代「今年の代表は誰になるんだろうな 俺か星五か亮さんってと
こか」

星五（どうでもいいけど相変わらず話長いな校長の宿命なのか？）

----- 集会后講堂前 -----

十代「やっと終わったな トメさんの所でドローパン買ってくか」

星五「あいいな レイ食ってみるか？」

レイ「・・・ドローパン？」

星五「ああレイは知らないのか パンの中に色々な具材が入っていて
ドローの練習になるらしい おいしい黄金の卵パンってのが
あってな」

レイ「美味しそうだな・・・何処にあるんだ？」

星五「購買で売ってるから一緒に行こうぜ」

レイ「うん・・・ゴホ・・・ああ」

- - - - 購買 - - - -

トメさん「はいいらっしゃーいあら星五ちゃん達 あら？その子は？」

星五「ああこの前編入してきてなレイっていうんだ」

トメさん「レイちゃんね ここをよろしくね」

レイ「はい」

星五「レイ 1つ買ってみろよ あ選ぶ時はちゃんとドローっていうんだぞ」

レイ「うん ドロー・・・ステーキだ・・・あんまり好きじゃないんだよね」

・・・じゃなかっただよな」

星五「俺も買うか ドロー よし 卵パン 絶好調 あレイ嫌いなら交換するか？」

レイ「で・・・でも・・・（間接キスになっちゃうよ・・・でも気にしたらばれちゃうかも）」

悪いよ 全然出ないんでしょ？」

星五「遠慮するなって 編入祝いだ 俺だったらすぐに引けるしな」

レイ「ありがとう・・・うん美味い・・・（でも恥ずかしいよお」

・・・夜 星五・レイの

部屋 ・・・

星五「レイ・・・は今日も後から入るのか」

レイ「うん ちょっとデッキ調整してるから」

星五「じゃあ十代一緒に行こうぜ」

レイ（・・・行つたよね確かデッキはここに・・・）

星五「あ・・・手拭い忘れた ちょっと部屋に戻ってくる」

レイ「これが星五様のデッキ・・・」

星五「レイ ちょっと手拭い忘れちゃ・・・え？」

レイ「・・・あ」

星五「・・・人のデッキを頬擦りして何をやってるんだ？」

レイ「そ・・・それは」

星五「言い難いことなら風呂入ってる間に考えてろ じゃあ行つてくる」

・・・入浴後 崖・・・

-

星五「えっと・・・亮を見てたところからすると 亮が好きでこの学園に潜入した？」

レイ「・・・はい」

星五「じゃあ何で俺のデツキを？」

レイ「そ・・・それは」

星五「しかし・・・女の子ならレッドにはいられないことは分かるよな？」

レイ「うつ・・・ボクとデュエルしてよ ボクが勝ったら 言わないで欲しいんだ」

星五「（あまりにも一方的な条件まあ良いけど） わかった デュエルをしよう」

・・・その前に 覗きは趣味が悪いと思うぞ5人共」

十代「おー気が付いてたのか」

星五「亮さんまで見てるのは予想外だったけどなまあ今度こそ始めようか」

デュエル

星五「俺のターン 融合賢者発動 融合を手札に加える さらに
未来融合

フューチャーフュージョン発動 真紅眼の飛竜2枚レッドアイズ
ダークネスメタルドラゴン

真紅眼の黒竜 マテリアルドラゴンを墓地に送り2ターン
後FGDを特殊召喚する

カードをセットしてターンエンド エンドフェイズに飛竜
の効果で

ダークネスメタルを召喚ターンエンドだ」

レイ「ボクのターン 恋する乙女を召喚 カードをセットしてター
ンエンドだよ」

星五「俺のターン 「畏カード神の恵み発動」 ダークネスメタル
で恋する乙女に攻撃」

レイ「くううううう」

2800vs400

レイ1600

星五「なあレイ・・・お前本当に恋だけの理由でここに来たのか？」

レイ「え？」

星五「本当はデュエルが好きなんじゃないのか？」

レイ「うん・・・ボクデュエル好きだよ」

星五「よし なら 全てをそのドローに掛けるんだ ターンエンド」

レイ「分かったよ　ボクのターンライフを500回復(2100)
よし恋する乙女を守備表示に変更し
強制転移発動」

星五「うつ・・ダークネスメタルが・・・」

レイ「バトル　ダークネスメタルドラゴンで恋する乙女に攻撃」

星五「トラップ発動　聖なるバリアーミラーフォースだ悪いな」

レイ「あっ・・ボクはモンスターをセットしてターンを終了するよ」

星五「俺のターン　この時FGDが融合される　バトル　FGDで
伏せモンスターに攻撃」

レイ「このカードは見習魔術師　恋する乙女を裏側守備表示で召喚
するよ」

星五「ターンエンド　飛竜の効果でダークネスメタルを召喚」

コクト「僕は除外される運命なのさ・・・」

レイ「ボクのターン500回復して2600
モンスターをセットしカードをセットしターンエンドだよ」

星五「俺のターン　ダークネスメタルの効果でマテリアルドラゴン
を蘇生」

バトル　マテリアルドラゴンで　裏の恋する乙女を攻撃
ダークネスメタルで伏せモンスターに攻撃

止めだ FGDでダイレクトアタック」

レイ「うわああああああ」

星五「楽しいデュエルだったぜレイ まあ約束通り アカデミアに報告させてもらっぜ」

レイ「う．．．うん」

．．．校長室．．．

星五「ということで レイを正式な生徒にしてください
デュエリストとしての資格があります 編入試験も受けていますし

デュエルしてみても凄いわくわくしました彼．．．いや彼女なら立派なデュエリストになれますよ」

レイ「えっ．．．報告ってそういう．．．」

校長「デュエリストになる素質のある生徒なら私は大歓迎です。では正式に

レイくんをデュエルアカデミアの生徒と認めます」

レイ「え？じゃあ．．．ずっと星五様と一緒に居て良いの？」

星五「ああ これからもよろしくな レイ『ちゃん』」

レイ「そ．．．その呼び方は恥ずかしいよ．．．／／／」

星五「とりあえずレイは明日香の部屋にしてくれないか？」

他のやつは何か信用できない」

明日香「分かったわ　よろしくね　レイちゃん」

レイ「はいよろしくおねがいします明日香さん」

恋する乙女（後書き）

メインヒロインが更に何話も先となってしまうのは
小説的にもテンション的にもきついで早くに入学することに

対抗デュエル決定戦

- - - 会議室 - - -

クロノス「どうしてなノーネ ノース校との対抗デュエルの代表は昨年と同じ亮丸藤に決まっていた

筈なノー二」

校長「それがノース校の代表が1年生らしいのでこちらも1年生をと　そこで誰を代表にするか」

亮「小波星五・・・俺を破った彼なら代表として相応しいのではないでしょうか」

校長「なるほど星五くんなら十分任せられますね」

クロノス「（あんなドロップアウトボーイ嫌なノーネ　誰か・・・）
三沢大地

ならどうなノーネこの2人をデュエルさせて　勝った方を代表にするノーネ」

校長「それは良い考えですね　そうしましょう」

- - - 後日授業 - - -

大徳寺「ということで三沢君と星五君でデュエルを行うことにするのニャー」

星五「（・・・三沢誰だっけああ黄色の人か）」

レイ「星五様頑張つてね」

星五「ああ絶対勝つぜ」

三沢「凄い自信だな　だが俺も負けない」

星五「えっと・・・ああ君が三沢大地か　デュエル　よろしくな」

三沢「ああ　俺は君のデッキを完全に研究して　弱点を見つけた
遠慮なく突かせてもらうよ」

星五「・・・人の戦術にとにかく言つつもりはないが・・・俺にだ
け勝てるデッキを作つても

全く相手が分からない対抗戦はどうするつもりだ？」

三沢「うつ・・・」

星五「まあ敵を知り己を知らば百戦危うからずというからな　知り
える情報を利用するのは

良い事なんじゃないか？　じゃあな楽しみにしてるぜ・・・
じゃあレイ行こうか」

レイ「はい星五様ー」

星五「レイ　今日は何食べたい？」

レイ「うーん辛イドローパンが良いなー」

星五「よし任せとけじゃあ俺のはレイが選んでくれ」

星五・レイ「ドローパン下さーい」

トメさん「はいはいドローパン2人ねどうぞ選んでおくれ」

星五「ドロー うん辛い 激辛カレーパンだ」

レイ「ドロー んっ・・・チーズだこれもおいしいんだよね」

星五「じゃあ交換しようか」

レイ「うんっ 星五様を選んでくれたからかないつもより美味しいや」

星五「レイ・・・レイを選んでくれたこのパンも美味しいよ」

レイ「わーい喜んでくれた嬉しいなあ」

モブ「何だこいつ等・・・購買で平然とイチャついている恥ずかしいのか」

マリア「ちょっとー今日のご飯はー」コクト「くれなきや拗ねちゃうよ」ぺしぺし

星五「はっ・・・ごめんな皆 今から買うから トメさんいつものセットね」

トメさん「はいはい星五ちゃんエクレアにココアにチョコねはいど

うぞ」

星五「じゃあレイ 行こうか ブルー寮まで送るよ 手・・・繋いでさ」

レイ「う・・・うん」

－ － － － ブルー女子寮 － － －

モブルー女子「ちょっと 貴方ここは男子禁制よ近づかないでくれるかしら」

星五「・・・いいからここを開ける レイはもうブルー生徒だ問題ないだろ」

モブルー女子「貴方を入れるわけには・・・」

星五「レイ 離れたくないがここまでの様だ 部屋に着いたら電話することにしよう」

レイ「うん・・・まだ星五様の声聞いてたいから・・・」

星五「レイ・・・」

レイ「星五様・・・」

モブルー女子「・・・あ・・・あれ？私放置？何か2人の世界を作り始めて・・・」

明日香「貴方達・・・ブルー女子寮の前で何をやっているの?」

星五「見て分からないか?今日はもう電話でしか喋れないから最後のイチャつきをしてるところだが」

明日香「それは堂々と言えることと思ってるのかしら・・・」

星五「思ってるけど」

レイ「ちょっと 明日香さんとはっかり話さないでよ」

星五「ごめんなー」ナデナデ

レイ「今回だけだよー」

明日香「(これ以上この甘ったるい空気に耐えきれないわ・・・)」

レイ「部屋に戻るわよ」

レイ「えーもうー」

星五「じゃあ最後な」ギュー

レイ「エヘヘーじゃあ電話してね」

星五「ああ絶対するよ」

明日香「じゃあレイ部屋に」

レイ「はい 星五様 明日頑張ってね」

星五「ああ任せとけレイの為に絶対に勝つ」

明日香「はぁ・・・（もう甘ったるいのは限界だわ・・・これが部屋でも・・・？大変な生活

になりそうだわ・・・）」

沢の部屋 - - - - 同日深夜イエロー寮三

三沢「・・・星五のデッキの特徴は・・・轟龍 融合モンスター・・・・何れも

高レベルになりがち・・・なら強者の苦痛やレベル制限で攻撃を縛りながら

一方的に殴れるアトランティスなら・・・」

三沢「よし・・・これなら星五にも勝てるはずだ・・・」

対抗デュエル決定戦（後書き）

一
氣に甘
つた
るく
どう
して
こ
うな
っ
た
ん
だ

三なんとかさん

レイ「星五様ー対抗戦頑張ってねー」

星五「おいおいまだ代表決定戦だぞ」

レイ「星五様なら勝てるよー」

星五「そうかなー」

明日香「・・・（相変わらずイチャイチャして・・・）さっさとデュエル場に行きなさい」

星五「はい」

・・・デュエル場・・・

三沢「星五 今日はよろしく頼むよ」

星五「ああ絶対に勝つ」

デュエル

星五「俺の先行 モンスターをセット カードをセットしターンエンド」

三沢「俺のターン グラナドラを召喚 1000回復しバトル」

星五「このモンスターはライトロードハンターライコウデッキ
から3枚墓地に送りグラナドラを破壊する」

グラナドラ

召喚時1000回復

破壊され墓地に送られると2000ダメージ

ライトロードハンターライコウ

リバース

デッキから3枚墓地に送りカードを破壊する

三沢「くっ・・・」

三沢4000↓5000↓3000

三沢「カードをセットしターンエンドだ」

星五「俺のターン モンスターをセットしターンエンド」

三沢「俺のターン シーザリオンを召喚 バトル」

星五「魔導雑貨商人の効果 魔法罫が出るまで墓地に送る6枚を墓
地に送り大嵐を手札に」

三沢「ターンエンドだ」

星五「俺のターン エンジェルリフト発動 ホワイトキングを蘇生」
ホワイトキング 2000

三沢「何っホワイトだと・・・」

星五「ああ2枚墓地に送られた 続行するぞモンスターをセットし
バトル ホワイトキングでシーザリオンを攻撃」
シーザリオン1800 ホワイトキング2000

三沢2800

三沢「ぐっ・・・」

星五「ターンエンドだ」

三沢「俺のターン シーザリオンを召喚 バトル 伏せモンスター
に攻撃」

星五「このカードはワイト婦人 反射ダメージを受けな」

ワイト婦人守2200 シーザリオン1800

三沢2400

三沢「ぐっ・・・ターンエンド」

星五「俺のターン 死者蘇生発動 E・HEROプリズマーを蘇生
プリズマーの効果でワイトを墓地に

バトル3000になったワイトキングで攻撃」

三沢「うつ・・・」

三沢1200

星五「プリズマーいやワイトでダイレクトアタック」

三沢 0

三沢「うわあああああああ」

星五「楽しかったぜ えつと三沢」

三沢「おい名前忘れてただろ まあ負けたよ・・・まさかこんなデ
ツキを隠し持ってたとは・・・」

レイ「キヤー星五サマー」

星五「レイ応援ありがとう まあこれは隠し持ってたわけじゃない
んだけどな」

公式デュエルで使わなかったただけでまあそれも含めレベルの
メタを張ってくる
ってわかってたんだけどな」

レイ「えへへー」

三沢「発動しなかったのによくわかったな」

星五「大体ドラゴンを警戒して融合禁止エリア 俺の天使にもドラ
ゴンにも刺さる」

レベル制限B地区を使いアトランティスで攻めるってところ
だろ」

三沢「星五・・・お前水属性っただけでなんでそこまでわかるんだ」

星五「自分のデッキの弱点は把握してるから・・・」

校長「・・・ゴホン では デュエルアカデミア本校代表は小波星五君に決定しました」

パチパチパチパチパチ

亮「星五・・・相変わらず凄いデュエルをする・・・対抗戦頑張るんだぞ」

星五「勿論です誰が相手でも勝つて見せますよ」

サンダー

レイ「星五サマー今日のデュエル頑張ってねー」

星五「ああ誰が相手でも勝つさありがとうな」ナデナデ

レイ「えへへー」

明日香「（朝からこの2人は・・・）」

- - - - 港 - - - -

星五「相手は誰だ？ん万丈目 お前ノース校に居たのか」

万丈目「万丈目さんだ！」

ノース「万丈目サンダー サンダー サンダー」

星五「まあいいや ようこそデュエルアカデミアへ デュエル場に行こうか」

- - - - デュエル場 - -

- - -

デュエル

星五「俺の先行 ドロー プロミネンスドラゴンを召喚 バーニン
グブラッド発動

カードをセットしターンエンド エンドフェイズにプロミネ

ンスの効果で500ダメージだ」

万丈目3500

プロミネンスドラゴン

このカード以外の炎族がいる場合このカードに攻撃できない
エンドフェイズに500ダメージ

万丈目「・・・これぐらいどうってことない 俺のターン モンス
ターをセット

カードを5枚セットターンエンドだ」

星五「俺のターン プロミネンスドラゴンを召喚これでプロミネ
ンスロックが完成した」

万丈目「これは・・・ノース校四天王と同じロック・・・」

星五「残念ながらこのロックには切り込み隊長とは違う利点がある
バーン効果っていうものがな」

万丈目「だがさせない トラップカード激流葬 破壊させてもら
うぞ」

星五「即効魔法我が身を盾に 1500ライフを払い効果を無効に
しそのカードを破壊する

そしてターンエンド 1000のダメージだ」

万丈目2500

万丈目「くそっ俺のターン カードをセットしメタモルポットを反

転召喚 5枚ドロ

モンスターをセットしターンエンド」

星五「メタモルポットでホルスの黒炎竜LV8とクリッターが墓地に送られた」

万丈目「な・・・」

ノース校長「何・・・」

「レベルモンスター？」 「そんな あれは激レアカードな筈」

星五「大体・・・お前のデッキも本来はレベルモンスターなんだろう？」

プライドを考えると激レアカードのレベルモンスターを使うのは当然

さらにレベルアップを続ける向上心も伺える（まあレベルアップでレベル下げれるけど）

早く見せてくれよお前のレベルモンスターを楽しみにしてるぜ
俺のターン クロス・ソウル発動 その伏せモンスターをリリースし

人造人間サイコショッカーを召喚 罨を封じさせてもらうぞ
そしてカードを2枚セットしターンエンド1000ダメージ」

万丈目1500

万丈目「俺のターン死者蘇生でドラゴンフライを召喚 モンスターをセットし

光の護封剣発動ターンエンド」

星五「俺のターン カードをセットしターンエンド1000ダメな」

万丈目500

万丈目「くっ・・・俺のターン・・・俺の・・・負けだ・・・」

テレビ局「おい カメラ止め・・・（カ・・・カードが飛んできた・・・）」

星五「ヘーカード手裏剣って結構簡単なんだな 俺のターンエンド
フェイズに1000のダメージだ」

万丈目0

万丈目「うわあああああああ」

星五「報道陣が真実を歪めちゃいけないよな そんなだからマス
ゴミと・・・」

万丈目兄弟「準 万丈目家の人間ながら負けるとは何事だ

このデュエルの為にいくら掛けたと思っている

万丈目家に泥を塗りおって」

星五「なあ・・・もうカメラ回ってないよな？」

カメラマン「え？あ・・・はい」

星五「おいそこのスーツ二人」

万丈目兄弟「何だ 庶民が話しかけて良いと思って・・・ゲホ・・・何をする」

星五「顔に泥を塗るっていうのはこういうことを言うんですよ？」

万丈目兄弟「俺達万丈目兄弟と知ってのことが」

星五「どうでもいいよそんなこと それより いつ万丈目がカードをくれと言った？

いつ中継してくれといった？ 全部お前らが勝手にやったことだろう

そんなにデュエル市場が欲しければ海馬社長にでも勝負を挑んできたらどうだ？

まあ一瞬で潰されると思うけどな」

万丈目兄弟「くっ・・・覚えてろ・・・」

星五「さっ・・・万丈目 デュエルありがとうな

万丈目「何故だ・・・何故俺を助けた」

星五「別に 仲間を傷つけられるのがイラついたからやったただだよ」

万丈目「ふ・・・ふんお前のようなドロップアウトボーイと俺が仲間のわけないだろう

まあ・・・俺に勝ったことだ少しは認めてやっても良いかな」

レイ「星五サマー」ギュッ

星五「おっレイしつかり勝ったぜ」

レイ「やっぱり星五様は凄いよ」

星五「応援してくれたおかげだつて」ナデナデ

万丈目「おい 無視するな」

十代「星五 流石だぜ凄いデュエルだ」

- - -

- - - 表彰後潜水艦前 -

万丈目「俺はここに残る」

大徳寺「3か月欠席で万丈目君はレッドだニャー」

万丈目「なにー」

十代「ようこそレッドヘサンダー」

万丈目「俺がお前らと同じレッドだとー」

サンダー（後書き）

万丈目の死者蘇生を使う場所がないのは伏せられていたからです

課外授業

大徳寺「今日は課外授業で遺跡に行くのニャー」

星五「危ないかもしれないけど レイ大丈夫か？」

レイ「うん 少し怖いけど何かあったら星五様を守ってくれるから」

星五「レイ・・・安心してくれ絶対守るから」

明日香（授業だろうがイチャつきに使うのね・・・）

口・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・古代遺跡 入

十代「本格的に遺跡探検する前に昼飯食おうぜ」

星五「昼飯か」

レイ「あの・・・星五様 ボクお弁当作ってきたんだ 食べてくれる？」

星五「もちろん レイが作ってくれたのに食べないわけないだろう」

明日香（はいはい昼飯って時点で分かってたわよ なんなのこの2人は）

大徳寺「私にはトメさんが作ってくれた特製弁当があるのニャー」

十代「そのリュック全部弁当かよ 俺にも分けてくれ」

大徳寺「嫌なのにや皆に分ける分はないのニヤー」

ファラオ「ゲプ」

大徳寺「先生に弁当分けてほしいのニヤー」

レイ「ダメだよ ボクは星五様の為に作ってきたんだから」

星五「レイの作ってくれた弁当は1粒たりとも渡す気はないぜ」

十代「イヤなのニヤー先生に分ける弁当はないのニヤー」

星五「ん？ファラオ？どこにい・・・」

- - - - 異次元 - - - -

星五「ここは・・・ピラミッド？何でこんなところに・・・」

??「誰だ そこで何をしている」

星五「・・・君は？」

サラ「私はサラ 墓守の一族の一人だ・・・じゃない質問に答えろ」

星五「俺は小波星五 デュエルア・・・恐らく異世界の人間だ 仲間を探している」

サラ「やはり異世界からか・・・貴様の仲間に心当たりがある つ

いてこい」

星五「・・・わかった」

サラ「ここで待っている」

- - - 数分後 - - -

星五「えーっと・・・これは何のつもりですか？おい　　槍を向けるな」

長「そういうわけにはいかない」

星五「・・・あれ？言葉が通じなかったみたいですね　俺は命令してるんですよ　向けるなと」

長槍兵「こんな状況で命令するとは貴様バカか」

星五「・・・仕方ないですね　3人共頼むぞ」

マリア「わー」コクト「久々のマシな出番・・・」コクガ「ドーン」

長「なっ・・・こいつらどこから」

星五「では改めて言います　　槍を　向けるな　そして仲間を解放しろ　　ついでに元の世界に帰せ」

長「槍を下げることは出来る仲間はダ・・・1人だけ許そう　　元の世界に帰すのは無理だ」

星五「全員助けるのと帰るのにはどうすればいい？」

長「ワシと試練の儀式を行い勝つことだ」

星五「つまりあんたを倒せばいいと？おいマリア コクガ」

コクト「僕は又こういう扱いなんだね いや攻撃力が足りないのが悪いんだけどさ・・・」

長「ま・・・待てそういうことではない デュエルをして勝てと言っているんだ」

星五「・・・何だそういうことだったんですか 全く気が付きませんでした

てつきり叩き潰せばいいのかと あ解放するのはレイで」

レイ「怖かったよー星五様ー」

星五「ごめんな 守れなくて これからは一生守り続けるからな」

翔「こんなときにイチャつかないでよー」

星五「あ忘れてた とりあえず始めますか」

デュエル 儀式開始

星五「俺の先行 ドロー 真紅眼の飛竜を召喚 ターンエンド」

サラ（あ・・・あのモンスターは・・・まさか・・・）

長「ワシのターン 王家の眠る谷ネクロバレーを発動 カードを2枚セットしターンエンド」

星五「俺のターン サイクロン発動 ネクロバレーを破壊」

長「くっ・・・」

星五「飛竜を除外しレッドアイズダークネスメタルドラゴンを召喚
さらに 手札から

真紅眼の黒竜特殊召喚」

コクト「いつかは戦闘で活躍できる そう思っていた時代が僕にも
ありました」

長「残念だったな トラップ発動 激流葬 お前のモンスターを破壊する」

星五「（想定範囲内）・・・やはり俺は墓荒らしだったようだ
死者蘇生発動 ダークネスメタルを蘇生し 黒竜特殊召喚
バトル 黒竜でダイレクトアタック」

長1600

長「ぐぬぬ・・・」

星五「更にダークネスメタルでダイレクトアタック」

長「そっちの攻撃は通さない 次元幽閉発動 ダークネスメタルを除外」

星五「・・・想定内だ」

レイ「せ・・・星五様 大丈夫？」

星五「レイ 安心しろ俺は負けない」

長「ワシのターン カードをセットしターンエンドだ」

星五「俺のターン バトル 黒竜でダイレクトアタック」

長「があああああ・・・見事だよく試練の儀式をクリアした」

星五「ふう・・・まあまあ面白かったですね」

長「あの闇のデュエルが面白かっただど？」

星五「ああれ闇のデュエルだったんですかそれよりさあ 皆を解放して下さい」

サラ「あの・・・そのドラゴンは何処で？」

星五「・・・？このドラゴン達は俺のだが」

サラ「そ・・・そうですか やっぱりあの方とは関係ないのですね
しかし試練をクリアしたあなたならあの方と会うこともある
かもしれません」

長「これを・・・」

星五「これは・・・ネックレス？半分のようだが」

長「再び闇のデュエルを行う時 そのアイテムが力を貸してくれるはずだ」

星五「へえーじゃあ解放されたことだし皆かえ・・・何のつもりだ？」

長槍兵「王家の墓を暴くものには裁きを」

サラ「墓守の誇りを忘れたのか」

星五「ありがとうサラ これを持つ者がいたらよろしく言うておく」

- - -

- - - デュエルアカデミア遺跡 - -

星五「あー疲れたな 今日は休むか」

レイ「はい 星五様」

星五「おい 何でついてこようとするレイはブルー寮だろ」

レイ「たまには・・・」

星五「NO 俺捕まっちゃうからNO（高校生が小5は・・・アウ
トだろ・・・」

レイ「捕まる・・・？」

星五「とにかく今日は寝よう」

課外授業（後書き）

墓守要素が迷子 何で召喚しないんだAI

召喚されなかったから圧倒出来たけど

青眼の分色々入れたから事故りやすかったり

漫画では確か社長が4枚しか見つけれなかったってだけだから
星五が持つても不思議では・・・

カイバーマンの回で何か言ってたような気もするけどそこは
抹消しちゃうか・・・

最強の真紅眼使い（前書き）

デュエルの別の方法を試してみます。

最強の真紅眼使い

- - - 校長室 - - -

星五「セブンスターズ？」

校長「はいそのセブンスターズから鍵を守って欲しいのです」

星五「（集まったのが 明日香 十代 亮さん 万丈目 クロノス
三沢 俺か

これクロノスいらなくね）で 今分かっているセブンスターズはいつごろ来るんですか？」

校長「それは分かりませんがこの学園の為に 受けてくれませんか？」

星五「それは勿論です」

- - - 星五の部屋 - - -

星五「あの夜なんですけど何でここに居るんですか」

レイ「星五様に会いたくて」

星五「レイ仕方な・・・何だ ペンダントが・・・レイ逃げろ」

レイ「え？星五様？」

星五「いいから 早く逃げ・・・遅かったか・・・」

- - - 火山デュエルフィールド - - -

星五「うつ・・・ここは・・・」

ダークネス「我が名はダークネス 貴様の胸の鍵奪わせてもらおう」

星五「出来るものならな さあ闇のデュエルっていうんだ 鍵以外にも賭けるんだらう？」

ダークネス「良い勇気だ小波星五 これを見る」

レイ「星五様・・・助けて・・・」

星五「レイ・・・ダークネス・・・レイになにをしたんだ」

ダークネス「見ての通り 火山の上にバリアを張って置いているだけだが？」

星五「速く倒さないとアウトってことか・・・」

ダークネス「そうだ 更にお互いの魂を賭ける負けた方はこのカードに封印される」

星五「おいそんなんじゃ賭けは成立しないぜ こっちは大切な人と魂 鍵を賭けているのに」

お前は魂だけ 俺が勝ったらお前らの事 聞かせてもらっぜ」

ダークネス「いいだろう どうせ勝つのは私だからな」

デュエル

ダークネス「私の先行 ドロー アーミードラゴンを召喚 カード
をセットしターンエンドだ」

アーミードラゴン
軍隊竜

700/800

戦闘破壊でアーミードラゴン1体をデッキから特殊召喚

星五「俺のターン 真紅眼の飛竜を召喚 バトル アーミードラ
ゴンを攻撃」

ダークネス「アーミードラゴンの効果発動 デッキからアーミード
ラゴンを特殊召喚する」

星五「ターンエンドだ」

明日香「星五！」

星五「ん明日香か 今セブンスターズとやらとデュエルしてるとこ
ろだ」

ダークネス「私のターン リビングデッドの呼び声発動 アーミ―

ドラゴンを特殊召喚

2体のアーミードラゴンをリリースし真紅眼の黒竜を召喚

バトル 真紅眼の黒竜で真紅眼の飛竜に攻撃 黒炎弾」

明日香「これは・・・星五と同じレッドアイズ・・・（まさか・・・ね・・・）」

星五「ぐっ・・・何だこの炎は・・・」

真紅眼の飛竜 1800 vs 真紅眼の黒竜 2400

星五：3400

明日香「星五がダメージを受けるなんて」

星五「これぐらいどうってことはない」

ダークネス「私のターンは終了だ」

星五「俺のターン よし アックスドラゴニートを召喚 除外し
レッドアイズダークネスメタルドラゴンを特殊召喚効果で墓地から真紅眼の飛竜

を特殊召喚 バトル ダークネスメタルでブラックドラゴンに攻撃」

ダークネス「ぐっ・・・」

ダークネスメタル 2800 ブラックドラゴン 2400

ダークネス：3600

星五「更に 飛竜でダイレクトアタック」

コクト「やった・・・やつとまともな出番が・・・」

ダークネス「があああああ」

ダークネス：1800

星五「ターンエンドだ」

ダークネス「私のターン フッフ手札から死者蘇生を発動レッドアイズブラックドラゴン

を特殊召喚する 更に黒炎弾を発動 レッドアイズの
攻撃力2400ポイントの

ダメージを相手にあたえる」

星五「何っいつつ・・・」

星五：1000

星五「でもそんなのを残していたらダークネスドラゴンの攻撃でダメージを受けることになるぜ」

ダークネス「まだ私のターンは終了していない アタッチメントドラゴンを召喚する

アタッチメントドラゴンは召喚時 相手モンスターに
装備することが出来る

装備された相手モンスターは表示形式を変更し装備さ

れているかぎり

変更できない ダークネスメタルに装備する ターン
エンドだ」

レイ「星五様・・・助けて・・・怖いよ・・・」

星五「レイ・・・くそ・・・速く決めないと（俺の手札にブラック
ドラゴンを倒すカードはない）」

ドロー よし ダークネスメタルと飛竜をリリースし2枚目
のダークネスメタルを

召喚 効果により飛竜を特殊召喚 バトル ダークネスメタ
ルで攻撃」

2800VS2400

ダークネス1400

星五「続けて 飛竜でダイレクトアタック」

ダークネス「があああああああ」

ダークネス0

星五「ダークネス お前達の事聞かせてもら・・・うわっ」

火山 - - - -
- - - -デュエルアカデミア

星五「ここは・・・元の火山？レイ大丈夫か？」

レイ「うん・・・星五様が助けてくれたから・・・」

星五「そうか良かった・・・んこのカードは・・・ダークネスが付いていた仮面？」

何でこんなものが・・・」

ダークネス「うつ・・・ここはどこだ・・・？」

星五「ダークネス！ お前は封印されたはずじゃ・・・」

ダークネス？「ダークネス？それは・・・誰だ・・・？君は・・・」

星五「記憶がないのか・・・仕方ない・・・とりあえず校長に相談しに・・・」

明日香「兄さん・・・兄さんなのね・・・」

明日香兄「あ・・・す・・・か・・・？」

星五「ふーん兄妹だったのか・・・とりあえずコイツは校長に引き渡すぞ

怪我もしてるし・・・」

明日香「分かったわ・・・」

レイ「星五様 ボクも行くよ デュエルを見ていたし 怖いんだ・・・」

星五「分かったよレイ一緒に行くか」

最強の真紅眼使い（後書き）

今回の方式はTF3のトメさんのデッキがバニラ上級+BMGのみというものがあるのでそれでドロカードを確認不自然なプレイングは一方的にならないように

相手の動きはアニメ基準にし星五を追い込めるように変化

極悪吸血鬼

星五「・・・ここはどこだ・・・昨日は・・・ダークネスとデュエルをして・・・」

なんか長く寝てたような・・・」

明日香「星五・・・レイちゃん 星五が目覚めたわよ」

レイ「星五様ー心配だったよー」ガバツ

星五「急に抱きつく・・・何があったのか説明してくれないか？」

レイ「・・・イヤなの？」ウルウル

星五「え・・・い・・・嫌じゃないっていつか・・・」

明日香「・・・今はイチャついてる場合じゃないのよ 星五は兄さんとデュエルして2日寝てたの

やっぱり闇のデュエルはダメージが大きかったみたいね」

星五「2日？その間セブンスターズは？」

明日香「1日目はクロノス教諭2日目は亮がデュエルして・・・負けたわ」

星五「え？クロノス先生ならまだしも亮魔で倒すなんて・・・」

明日香「それが闇のデュエルのアイテムで翔君を人質にしたのよ」

星五「卑怯な手を使ったってことか・・・それを防ぐには・・・」

吹雪「あ・・・」

明日香「兄さん？何か言いたいのか？」

吹雪「奴は・・・カミューラは闇のアイテムを使う・・・このペンダントで身を守るんだ・・・」

そのペンダントが1つになったとき闇のデュエルに立ち向かう事が出来るはずだ」

星五「吹雪さん ありがとうございます 絶対に倒してきます
しかしイラツとくるぜ・・・やってる場合じゃないか」

明日香「ちょっと星五何処へ行くのか？」

星五「そいつを倒しに行くに決まってるだろう」

・・・カミューラの城・・・

星五「おい吸血鬼出て来いよ相手してやる」

カミューラ「あら 又オトコノコ・・・こいつも人形にしてやろうかしら」

星五（寒気が・・・）

デュエル

レイ「星五様 無茶だよ 止めて」

星五「レイ 何でお前が・・・帰れ 前分かっただろう闇のデュエルの怖さは」

レイ「それでも 見守らないといけないと思うから・・・」

星五「仕方ないな・・・皆レイを守ってやってくれ」

カミューラ「早くターンを始めなさい」

星五「あ忘れてた 俺のターン 手札断殺 手札から2枚を墓地に送り

2枚ドロー モンスターをセットしターンエンド」

カミューラ「私のターン 幻魔の扉発動 私は生贄に その小さな子を選ぶわ」

星五「やめろ レイに手を出すな」

レイ「星五様・・・怖い・・・助けて・・・」

カミューラ「そんなこと闇のアイテムの力を使えば関係ないわ」

星五「2つに別れたペンダント 今1つに」

カミューラ「なんですって こんな人間が何故闇のアイテムを・・・

」

星五「さあ 闇のアイテムで他人を身代わりにすることは出来なくなつた

自分の魂を使いな」

カミューラ「く・・・私は誇り高きヴァンパイア一族の魂を幻魔に
預け発動

その伏せモンスターを破壊し貴方の墓地の馬頭鬼を私
の場に

更に不死のワーウルフを召喚 バトル馬頭鬼でダイレ
クトアタック」

星五「くっ・・・」

馬頭鬼 1700

星五 2300

カミューラ「ワーウルフで攻撃」

星五「っ・・・」

不死のワーウルフ 1200

星五 1100

明日香「星五がこんなに追い込まれるなんて・・・」

カミューラ「私のターンは終了よ」

星五「俺のターン 手札からおろかな埋葬を発動 デッキからワイ
トキングを墓地に

そしてワイトキングを通常召喚」

ワイトキング攻撃力？

星五「ワイトキングは墓地のワイト又はワイトキングの数だけ攻撃力を1000あげる

俺の墓地にワイトとワイトキングは合わせて3枚 よってワイトキングの攻撃力は3000」

カミューラ「なんですって 貴方の墓地のワイトとワイトキングは今墓地に送った

1枚だけの筈・・・」

星五「ワイト夫人は墓地ではワイトとして扱う そしてもう1枚のワイトは幻魔の扉

で破壊されたカードだ 続行 バトル ワイトキングで馬頭鬼に攻撃」

ワイトキング3000 馬頭鬼1700

カミューラ2300

カミューラ「ふふ・・・これぐらいどうってことはないわ」

星五「カードをセットしターンエンドだ」

カミューラ「（攻撃力3000のワイトキングを出されたらライフポイントで勝っていても

有利とはいえないわ・・・でも私の最強のしもべさえくれば・・・）私のターン

ドロー 強欲な壺発動 手札を2枚ドロー」

星五（アニメではパターンだよな壺からの逆転）

カミューラ「フッフ 不死のワーウルフを生贄にヴァンパイアロードを召喚

更に除外しヴァンパイアジェネシスを特殊召喚」

星五（ジェネシスは確か・・・創世記だったか・・・意味は始まりつまり

ヴァンパイアの始祖？まあどうでもいいか」

カミューラ「永続魔法 ジェネシスクライシス ワンターンに1度デッキから

アンデット族モンスター1体を手札に加えることが出来る」

星五（始祖の危機？さつきからジェネシスとかクライシスとかFF？を連想してしまう）

カミューラ「デッキから龍骨鬼を手札に加えヴァンパイアジェネシスの効果で

墓地に送るわ ヴァンパイアジェネシスは手札のアンデット族モンスターを墓地に

送ることによって そのカードよりレベルの低いアンデット族を墓地から特殊召喚できる

不死のワーウルフを攻撃表示で特殊召喚するわ」

三沢「拙い このままではワーウルフのダイレクトアタックで星五のライフが無くなってしまう」

翔「あ三沢君いたんだ」

三沢「居たんだ！ってそんな場合じゃないだろ」

カミューラ「唯一対抗する手段といえばそのリバースカード そのリバースカードも使えなく

してあげるわ ハリケーン発動」

星五「この瞬間 速攻魔法 月の書 ヴァンパイアジェネシスを裏側守備表示に

よってハリケーンはジェネシスクライシスのみを手札に戻す」

カミューラ「くっ・・・ターンエンドよ」

星五「俺のターン モンスターをセットし バトル ホワイトキングで裏守備のヴァンパイアジェネシスに攻撃」

ヴァンパイアジェネシス守備2100 ホワイトキング攻撃3000

星五「ターンエンドだ」

カミューラ「私のターン 不死のワーウルフを守備表示に変更 ターンエンドよ

（これなら戦闘破壊されても守備表示で耐えられる・・・）

星五「俺のターン ジェネシスクライシスを使わず守備表示か・・・ 大方

守備表示を続ければ耐えられるとも思っただろうが・・・

ダメだな クライシスは使うべきだった」

カミューラ「何を・・・」

星五「ライトロードハンターライコウを反転召喚 効果により 不死のワーウルフを破壊

バトル ワイトキングでダイレクトアタック 命を延ばすだけだったら・・・

ジェネシスクライシスでもう1体不死のワーウルフを出しておくべきだった

俺には戦闘破壊しかないと考えていたのかそれとも攻撃力が上がらなくなる

事を恐れたか」

カミューラ「きゃあああああああああ」

カミューラ0

星五「さあ卑怯者の敗者への罰ゲームだ 現れる幻魔の扉 吸血鬼の魂を持っていけ」

亮「・・・ここは・・・」

クロノス「なんなのーねシニョール万丈目」

明日香「星五 城が崩れるわ逃げるのよ」

星五「レイ 掴まれ 逃げるぞ」

レイ「は・・・はい」

- - - 翌日湖 - - -

明日香「吸血鬼が実在するなんて・・・夢でも見てたみたい・・・」

レイ「うん・・・怖かったよ・・・」

星五「でも・・・本当なんだよな・・・」

三沢「これを・・・」

星五「これはカミューラが付けていた闇のアイテム？

これからの戦いに使えるかもな・・・ありがとう」

決闘王の好敵手（前書き）

カイバーマンが倒せず検討していたらこんなことに・・・

決闘王の好敵手

十代「お 星五 一緒に風呂行こうぜ」

星五「いいけど急にどうしたんだ？」

十代「いやなんとなく」

星五「そくだよなお前はそう奴だよなじゃあ行くか」

- - - - 温水プール - - - -

十代「うー気持ち良い」

星五「お前はいつも元気だよな」

十代「なんだよ星五お前も楽しもうぜ」

星五「ところで・・・何でお前らまで入ってるんだコクガ コクト」

コクト「いつも除外されてばかりでたまにはゆっくりしたいんだよ・
・」

星五「・・・すまなかった」

コクガ「まあそのゆっくりも叶わないみたいだな ホレ」

星五「なんかボコボコしてるな・・・ここに行けと？」

コクガ「ああ！」

星五「仕方ないか・・・え・・・ちょ・・・ふかつ」

- - - ? ? ? ? ? - - -

星五「ここは・・・キーマイス？踊る妖精？プチテンシ？おい十代翔隼人大丈夫か？」

翔「ううここは・・・」

??「精霊に導かれしデュエリストとは貴様たちのことか」

おじゃまいエロー「カイバーマンさまー」

星五「へえ本当にカイバーマンなのか　で・・・俺たちに何の用だ？」

カイバーマン「その答えはデュエルをすれば分かるだろう」

星五「そうだなじゃあ始めようか」

デュエル

星五「俺のターンドロ・・・アックスドラゴニユートを攻撃表示で召喚

ターンエンド」

カイバーマン「俺のターン 俺が引いたカードは正義の味方カイバーマン」

星五（召喚するなら召喚するって言えよ・・・）

カイバーマン「このカードを生贄に手札からしもべを1体召喚する
伝説を見せてやろう いでよ我が忠実なるしもべ
みるがいいそして慄くが良い 光臨せよブルーアイズホワイトドラゴン」

星五「1ターンでブルーアイズですか・・・きついですね」

カイバーマン「ブルーアイズホワイトドラゴンの攻撃 滅びのバーストストリーム」

アックスドラゴニユート2000

ブルーアイズホワイトドラゴン3000

星五LP3000

星五「くっ・・・」

カイバーマン「ターンエンドだ」

星五「俺のターン・・・俺はモンスターをセットしカードをセットしターンエンド・・・」

（あと1枚のキーカードが・・・引けない・・・）

カイバーマン「ならば俺のターン 強欲な壺を発動 手札から滅び

の爆裂疾風弾

合を発動

ドラゴン

ースト

ワハハこれで俺の勝ちだ」

星五「トラップ発動 リビングデッドの呼び声 自分の墓地のモンスターを

攻撃表示で特殊召喚する アックスドラゴニュートを蘇生」

カイバーマン「ふうん何とかしのいだというところか 攻撃は続行だ

ブルーアイズアルティメットドラゴン4500vsアックスドラゴ
ニュート2000

星五LP500

カイバーマン「しかし命が1ターン伸びただけの事いくら貴様の雑
魚共が

束になったところでアルティメットを超えることは
できない

ターンエンドだ」

星五「ここでキーカードをひけなきゃ・・・俺は負ける・・・ドロ

俺は手札から未来融合フューチャーフュージョンを発動

伝説の白石3枚と真紅眼の飛竜とレッドアイズダークネスメ
タルドラゴン

を墓地に送り2ターン後F G Dを特殊召喚する まあこのデ
ュエルがどうなるうと

2ターン先は来ないけどな さらに伝説の白石が3枚墓地に
送られたことにより

青眼の白龍を3枚手札に加える」

カイバーマン「ブルーアイズだと・・・何故貴様がそのカードを・
」

星五「ちよつと古いパックを漁ってたらね・・・さらに手札から融
合発動

ブルーアイズ3体融合青眼の究極竜を召喚」

カイバーマン「アルティメットまで・・・だがしかしブルーアイズ
の真の支配者

はこの俺だ そんな偽りのブルーアイズでは俺のア
ルティメットと

相討ちにすることしかできない」

星五「アルティメットで攻撃するなんて言ってますよ 融合解除
発動

ゆづこう素材となったブルーアイズ3体を場に特殊召喚」

カイバーマン「わざわざ攻撃力を下げるとは血迷ったか」

星五「これで最後ですよ 魔法カードデルタアタッカー」

カイバーマン「デルタアタッカーだと・・・？」

星五「自分の場に同名通常モンスターが3体存在するときに発動で

きる

このターンに限りその3体はダイレクトアタックが可能となる」

カイバーマン「そんなバカな・・・」

星五「バトルだ ブルーアイズホワイトドラゴンの攻撃 滅びのバーストストリーム

3連弾」

カイバーマン「ぐあああああああああ」

カイバーマンLP - 5000

十代「すげえこんな逆転をするなんて」

カイバーマン「フン・・・俺のブルーアイズを破るとは・・・大丈夫のようだな・・・」

星五「いえ・・・最後のターン 引けなければ負けていました・・・
今度機会があったらデュエルをしましょう」

カイバーマン「ふうんこの俺が同じ相手に2度負けることなどあり得ない」

星五「さあ皆帰ろうぜ」

決闘王の好敵手（後書き）

はい改変酷いです アルティメットの攻撃をもう1ターン防げないので

1ターンカットしました

コンボと言えないほどのキーカードの多さ8000でもワンキル出来るにしては

良い方か・・・次回は魅せデュエルが出来るよう頑張ります

万丈目兄（前書き）

タイタンの枠を埋める為に万丈目兄に生贄に

万丈目兄

十代「おい星五 セブンスターズが現れたらしいぞ」

星五「ふーん どんなやつだ？」

十代「それが万丈目の兄さんらしい」

星五「へー確か初心者だろ？俺が出なくても・・・」ナデナデ

レイ「ふにゃー」

十代「それが星五を指名してきてるんだ 指名が無かったら俺が行くんだけどなあ」

星五「あの時遊びすぎたかな・・・仕方ない行くか・・・」

- - - - 決闘場 - - - -

万丈目兄「ククク・・・この闇の力を持ち我が万丈目グループを嘗めた事後悔させてやる」

星五「闇の力ねえ・・・危ないから止めた方がいいと思うよ」

万丈目兄「もうこうするしかないのだ・・・それにこのドラゴン達の力なら・・・勝てる」

デュエル

星五「俺のターン 真紅眼の飛竜を召喚 ターンエンド」

万丈目兄「私のターン ドロー魔法カード融合 ロードオブドラゴンと 神竜ラグナロクを融合し

竜魔人キングドラグーンを特殊召喚 更に効果によりエメラルドドラゴンを特殊召喚する

バトル キングドラグーン 真紅眼の飛竜に攻撃 さらにエメラルドドラゴン

でダイレクトアタック」

キングドラグーン エメラルドドラゴン 攻撃力2400

真紅眼の飛竜 1800

星五「くっ・・・」

星五1000

万丈目兄「ターンエンド」

星五「俺のターン 俺も融合を発動 沼地の魔獣王と真紅眼の黒竜を融合 メテオブラックドラゴン

召喚 バトル メテオブラックドラゴンでキングドラグーンに攻撃」

メテオ3500

万丈目兄2900

星五「ターンエンド　そしてエンドフェイズに墓地から飛竜を除外し黒竜を召喚」

万丈目兄「私のターン　モンスターを裏守備表示で召喚ターンエンド」

星五「俺のターン　2体で攻撃ターンエンド」

万丈目兄「くっ・・・ここで負けるわけには・・・ドロー　龍の鏡を発動　守備表示で

キングドラグーンを召喚　ダイヤモンドドラゴンを守備表示で特殊召喚ターンエンドだ」

星五「俺のターン又2体で攻撃だ」

万丈目兄「私のターン・・・ドロー・・・ターン終了だ」

星五「俺のターン　黒竜を守備表示にしバトル　メテオで攻撃だ」

万丈目兄「ぐおおおおおおお」

万丈目兄0

十代「おお星五すげえな」

レイ「星五様ー」ギュー

星五「これで3人か先は長いな」

レイ「むう・・・もっと反応してよ・・・」

星五「いめんいめん」

万丈目兄（後書き）

これだけ時間かけてこの出来・・・もう少し頑張らなくては・・・

アマゾネスの長

十代「又セブンスターらしい奴が出たらしい」

星五「・・・流石に3人倒しちゃったからな休ませてくれ誰かがデユエルして負けたなら出るが・・・」

十代「いいのかよ俺倒しちまうぜ」

星五（とりあえず三沢にも脱落してもらわなきゃならないし寝るか・
・）

- - - - -翌日 - - - - -

星五「・・・デュエルどうなったんだろっ」

ガチャ

三沢「おい星五 セブンスターが・・・」

星五「・・・誰が負けたんだ？」

三沢「・・・すまん俺だ」

星五「で？そいつはどこに？」

三沢「スタジオが出来ていてなそこに居る見たいなんだ」

星五「仕方ない行くか」

- - - タニヤ スタジアム - - -

レイ「あ 星五様 なんで昨日来てくれなかったの？ ボク寂しかったんだよ」

星五「ごめんなちよつと疲れてて・・・」

タニヤ「どわあああああそこ イチャつくな」

星五「お前がセブンスターズか？」

タニヤ「そうだ 早くデュエルを」

三沢「気をつける星五 タニヤは強い」

星五「・・・強いからセブンスターズなんだろ・・・アレは弱かったけどさ・・・」

タニヤ「いいから早く始めるぞ さあお前は知恵のデッキと勇気のデッキ どちらを選ぶ？」

星五「じゃあ強い方で頼む」

タニヤ「本当に良いんだな？」

デュエル

星五「俺の先行 凡骨の意地を発動 モンスターをセットしターン

エンドだ」

タニヤ「私のターン アマゾネスの聖戦士を攻撃表示で召喚このカードは

自分の場のアマゾネスモンスターの数だけ攻撃力を100あげる」

アマゾネスの聖戦士1700↓1800

タニヤ「更にアマゾネスチャームを発動お前の守備表示モンスターを攻撃表示にし

攻撃力を200あげる」

ソウルタイガー0↓200

星五「ソウルタイガーが・・・」

タニヤ「更にフィールド魔法アマゾネスの死闘場を発動 発動時お互いのライフを600回復する」

星五・タニヤ 4600

タニヤ「アマゾネスの聖戦士でソウルタイガーを攻撃」

星五3000

タニヤ「アマゾネスの死闘場の効果 モンスター同士の戦闘が行われた時

100ポイントを払い相手に100ポイントのダメージを与える事が出来る」

星五2900

タニヤ4500

タニヤ「私のターンは終了だ」

星五「俺のターン ドロー凡骨の意地の効果 ドローした通常モン
スター

バトルフットボーラーを相手に見せ更にドロー昆虫装甲騎士
ドロー・・・

ドローフェイズを終了し2枚目の凡骨の意地を発動 昆虫装
甲騎士

を召喚し聖戦士とバトルを行う」

昆虫装甲騎士1900

タニヤ4400

タニヤ「やるじゃないか・・・私のターン アマゾネスの剣士を召
喚しターンエンド」

クロノス「相手より低い攻撃力のモンスターを攻撃表示なノーテ
あり得ないー」

星五「俺のターンドロー剣闘獣アングル2枚ドローネオアクアマド
ール2枚ドロー

エーリアンソルジャー2枚ドロー大木炭182枚ドロージエ
ネティックワウルフ

2枚ドローチェミナイエルフ2枚ドロー サファイアドラゴ
ン2枚ドロー

ブラッドヴォルス2枚ドロー 暗黒の狂犬2枚ドロー」

万丈目「星五のやつ・・・そんなにカードを引いて何をするつもりだ？」

星五「ドローフェイズ終了 更に苦渋の選択を発動 エーリアンソルジャーと暗黒界の番兵レンジ

昆虫装甲騎士とサファイアドラゴン大木炭18のうちお前の選んだ1枚を手札に加える」

タニヤ「ならレンジを手札に加えろ」

星五「バトル 昆虫装甲騎士で剣士に攻撃 ダメージは俺が受けるんだよな」

騎士1900 剣士1500

星五2500

星五「手札調整で大量のカードが墓地に送られる」

タニヤ「何をするつもりだ・・・私のターン カードをセットしアマゾネスペットタイガー

を召喚 アマゾネスの数だけ攻撃力を400あげる ター
ン終了だ」

星五「俺のターン このターンで俺の勝ちだ儀式魔法 合成魔術を発動 手札からネオアクアマドルをリリースし降臨せよライカン・スロープ」

タニヤ「ふん そんな攻撃力じゃ私のライフを削り切ることなどできないぞ」

星五「それはどうかな バトル ライカンスロープでアマゾネスベツタイガーを攻撃」

タニヤ「トラップ発動 アマゾネスの弩弓隊 このカードはアマゾネスモンスターがいるとき

相手の攻撃時に発動 攻撃力が500下がり全てのモンスターで攻撃しなければ
ならない」

ライカンスロープ2400 ↓ 1900

アマゾネスベツトラゴン1100 ↓ 1500

タニヤ4000

タニヤ「どうした このターンで勝つんじゃなかったのか？」

星五「ライカンスロープの効果 相手に戦闘ダメージを与えた時墓地の通常モンスターの数×200

のダメージを与える」

タニヤ「・・・そのためにあれだけのカードを・・・」

星五「もちろん俺の墓地の通常モンスターは20を超える」

タニヤ「がああああああああ」

タニヤ0

星五「タニヤ 機会が逢ったら又デュエルしてくれよお前はセブン
スターズの中でも

良い奴みたいだからな・・・」

タニヤ「ふっ・・・」

三沢「タニヤっちが・・・虎に・・・」

星五「さ・・・帰ろっぜ・・・元気出せよ三沢いつかまた会えるさ」

アマゾネスの長（後書き）

儀式に手を出したのは間違えでした

我ら黒蠍盗掘団（前書き）

牛歩更新・・・

我ら黒蠍盗掘団

マグレ「こんにちは皆さん警部のマグレです」

星五「その眼帯いい趣味してますね・・・まるで首領ザルグのようで」

マグレ「何故私がザルグだと・・・逃げる」

星五「・・・ザルグ見たいと言っただけなんだけどな・・・

みんな追いかけるぞ」

・・・・・・・・レッド寮前・・・・・・・・

マグレ「私の先行 私は私自身のカード首領ザルグを召喚ここはせつかくだから

バトルの場には我々自身が参上する更にカードを1枚伏せターンを終了する」

星五「俺のターン カードを3枚セットし 暗黒の扉を発動 ターンエンドだ」

暗黒の扉

お互いのプレイヤーはバトルフェイズにモンスター1体でしか攻撃することができない

マグレ「私のターン 魔法カード強欲な壺 カードを2枚ドロさらに魔法カード

黒蠍団召集 場にザルীগがいるとき 黒蠍と名の付くモンスターを

手札から特殊召喚できる」

ゴーグ「黒蠍一の力持ち 強力ゴール」

ミーネ「黒蠍団の紅一点 茨のミーネ」

クリフ「どんなトラップでも朝飯前罨はずしのクリフ」

チック「お宝いただきゃあとはトンスラ 逃げ足のチック」

我ら 黒蠍盗掘団

マグレ「クリフにはダメージを与えた時フィールドの魔法 罨を破壊する効果を持つ

このターンで我々の勝利だ いけ 罨はずしのクリフ ダイレクトアタックだ」

星五「トラップ発動 くず鉄のかかし 相手の攻撃を無効にし再セツトする」

マグレ「何い ターンエンドだ」

星五「俺のターン ドロー 罨カード強欲な瓶と無謀な欲張りを発動カードを計3枚ドロし

さらに 魔法カード成金ゴブリン 相手のライフを1000回復しドロ」

マグレ5000

マグレ「ライフを回復させてまでドローするとはな」

星五「カードを2枚セット モンスターをセットしターンエンドだ」

マグレ「私のターンドロー」

星五「この瞬間即効魔法手札断殺を発動 お互いに手札を2枚捨て
2枚ドローする」

マグレ「今攻撃したところで・・・攻撃は届かないのだろう ター
ンエンドだ」

星五「俺のターン 無謀な欲張りの効果でドローフェイズをスキッ
プする

メインフェイズに強欲な瓶を発動1枚ドロー（よし1枚目・
・）

更にデスラクーダを反転召喚 このカードは反転召喚に成功
したとき

カードをドローそして成金ゴブリンを発動ドロー（2枚目・
・）

マグレ6000

十代「相手のライフが6000に・・・」

万丈目「どういふつもりだ・・・？」

星五「そして デスラクーダは1ターンに1度セットし直す事が出
来る モンスターをセットし

ターンエンド」

マグレ「私のターン 魔法カード 黒蠍愛の悲劇 ミーネを墓地に送り

お前の場のモンスターをすべて破壊する すまん・・・ミーネ」

星五「墓地に送られたモンスターを気遣うなんて良い奴だったんだな」

マグレ「これで大量にドローをする手段を減らした ターンエンドだ」

星五「俺のターン 魔法カード浅すぎた墓穴お互いに墓地のモンスターをセットする

俺はデスラクーダをセット」

マグレ「私はミーネをセットする」

星五「さらに早すぎた埋葬を発動 デスラクーダを蘇生しラクダの効果でセットする」

星五3200

マグレ「私のターン・・・くっ・・・ターンエンドだ」

星五「俺のターン ドロー（3枚目か・・・）2体のラクダを反転召喚

2ドロー更に魔法カード強欲な壺 2枚のカードをドロー
（4枚目と・・・）打ち出の小槌発動 1枚をデッキに戻し

シャッフルそしてドロ・・・モンスターをセットしター
ンエンド」

マグレ「私のターン ドロー フハハマジックカード大嵐 これで
お前の罠は全滅今伏せたモンスターの守備力によっては決
まってしまうな」

星五「（偉い人は言いました 説明は負けフラグと）やばいな・・・
」

マグレ「ハハハやばいといったな ということはそのモンスターの
守備力は

1200より下ということだ ミーネを反転召喚しバトル
だ クリフ今奴が伏せた

モンスターに攻撃だ」

クリフ「トラップナイフ」

マグレ「さらにチック ミーネも攻撃だ」

チック「な・・・なんだあ？う・・・動けないぞ」

マグレ「どうしたんだチック・・・」

星五「焦るなよ今破壊されたモンスターはクリッターだデッキから
モンスターを手札に加えないと・・・俺が加えるのは
封印されしエクゾディア」

マグレ「何いエクゾディアデッキだったのか しかしこのターン
の攻撃で終わらせる」

星五「何のために今までドロ―してきたと思ってるんだ？」

マグレ「ま・・・まさか」

星五「ああ　今5枚のカードは全て揃った
怒りの業火　エクゾードフレイム」

マグレ「ぐおおおおおおおお」

星五「カードに戻って・・・精霊？」

首領「俺達をあなたのところに置いてください」

星五「やめとけ・・・俺のこの精霊の最低攻撃力は1800
ゴ―グで互角に戦うことしかできないんだ
それより万丈目のところに行った方がいいぞ
そうすれば仕切ることができるぞ」

万丈目「万丈目さんじゃないおい勝手に・・・」

星五「さて今日も帰るか・・・」

万丈目「無視するな」

首領「じゃあよろしく頼むぜ」

万丈目「だあああなんで俺ばかりこんな目に」

我ら黒蠍盗掘団（後書き）

劣化していく・・・でもウィジャ盤もやりたい・・・

古代埃及決闘王（前書き）

この話が終われば学園祭だ　ボーイだ　頑張れ俺

古代埃及決闘王

星五「（なんか今日は嫌な予感がするオカルトが起こるような・・・）

セブンスターズに備えたいところだけど連戦で疲れたから寝させてもらうよ・・・」

十代「おお 星五ばかり戦ってたからな」

星五「じゃおやすみ」

- - - - - ? ? ? ? ? - - -

星五「そう言つて寝たはずなのに何で俺は謎の飛行物体にいるんだろぅ・・・」

十代「ミイラに連れてかれてきてたぞ」

レイ「星五様ミイラが・・・ミイラが・・・」

星五「よしよし怖かったなごめんな」

アビドス「世の名はアビドス3世 鍵を賭けてデュエルしてもらおう・・・」

星五「ただでさえ疲れてるのにレイまで巻き込みやがったアイツ・・・処刑してやる・・・」

十代「お・・・おい星五・・・テンションおかしいぞ・・・」

星五「・・・俺は正気だよ？」

十代「いや・・・疑問符付いてるし・・・仕方ない負けんなよ」

星五「ありがとな」

デュエル

星五「俺のターンカードを4枚セット黒蛇病を発動俺のスタンバイフェイズ毎に

お互いはダメージを受けるその数値は200からターンを重ねる

ごとに倍になる ターンエンド」

アビドス「モンスターを召喚しないでと・・・世を愚弄するか・・・世のターンドロ」

星五「トラップ発動 真実の眼 シモツチによる副作用 真実の眼はお前の手札を公開しスタンバイフェイズに魔法カードを持っていた場合

お前のライフを1000回復する シモツチによる副作用は相手のライフ

が回復するときそれをダメージに変える」

アビドス「うつ・・・世の手札には死者への手向けがある・・・1000ダメージだな」

アビドス3000

アビドス「手札から王家の守護者を召喚 カードを1枚伏せバトル」

星五「トラップ 拷問車輪 モンスター1体を指定しその相手モンスターは攻撃できず

表示形式も変更できず俺のスタンバイフェイズに500のダメージを与える」

アビドス「・・・ターンエンドだ」

星五「俺のターンドロ」

アビドス「トラップ発動 第一の棺 棺が2るそろった時楽しみにしておけ・・・」

星五「いや・・・その棺が揃うことはないぜ・・・スタンバイフェイズ お前に700 俺に200
のダメージを与える」

アビドス2300

星五3800

星五「トラップ発動 運命の分かれ道お互いにコイントスを行い表が出たら2000回復裏ならダメージ
を与える俺は・・・裏かまあいい」

星五1800

万丈目「星五 何やってんだ 自爆するなんて」

アビドス「世は・・・表 2000回復する」

アビドス300

アビドス「何世のライフが・・・」

星五「シモツチによる副作用の効果を忘れたのか？」

アビドス「何だと・・・世はどちらにせよダメージを受けていたと
いうことが・・・」

だが世のライフはまだ残っている」

星五「・・・お前さつき死者への手向け持ったままじゃないか？」

アビドス「あ・・・」

星五「まあこれで終わらせてやるよ メインフェイズ 恵みの雨を
発動

お互いに1000回復するでもおまえは・・・分かってるな
？」

アビドス「世はシモツチによる副作用の効果で・・・ダメージへ変
わる」

星五「正解」

アビドス0

アビドス「がああああああ」

星五「さ・・・終わったし帰ろうぜ 寝る」

十代「お・・・おう（怖え・・・」

古代埃及決闘王（後書き）

作者のテンションが壊れると星五のテンションも壊れます

星五は気に入らない敵がいると外道になります

七夕（前書き）

一か月以上空いた更新がこれってどうということなの

こういうイベントはリアルな季節を採用

時系列が合わないのでパラレルということでは

七夕

星五「授業が楽過ぎてつまらない・・・
何か面白いことないか・・・今日
・・・何日だっけ」

レイ「えっと・・・今日は7日だよ7月7日」

星五「ああ・・・今日七夕だったのか」

レイ「織姫様と彦星様が1年に1度出会える日・・・
ロマンチックだね」

星五「そうかな・・・俺はレイと1年に1度しか会えないなんて
耐えられないな」

レイ「星五様・・・」

星五「まあ星は綺麗だし・・・やってみるのも悪くないかな
おいみんな短冊に何か書くか？」

十代「七夕？なんだそれうまいのか？」

星五「いや七夕は食べ物じゃないから短冊つてものに
願い事を書くんだが・・・今回はこれを使おうと思う」

十代「それは・・・絵のないカード？」

星五「これならデュエルアカデミアらしくていいだろ？」

じゃあ1人2枚までな」

星五「やっというてなんだが・・・こんな願い自分でかなえるものだよなあ

まあいいかせつかくの七夕だしな」

「もつと強くなりたい」「レイとずっと居れますように」

十代「願いや目標を書けばいいんだよな？」

「だれにも負けねえデュエリストになる」「海老フライ食いてえ」

明日香「（十代と・・・わ：私は何を考えているの？）」

「兄さんのバカが治りますように」「デュエルアカデミアの教師になれますように」

吹雪「明日香！酷いじゃないか兄さんに向ってバカだなんて」

「明日香とデュエルアイドルになれますように」「また3人で笑いたい」

吹雪「あれ・・・？3人って・・・誰だったか」

翔「雷電娘々の精霊が憑いてくれますように」「アニキぐらい強くなれますように」

レイ「星五様に相応しい決闘者になれますように」「星五様とずっと一緒に居れますように」

星五「さて短冊カードを吊るしてつと 夜まで待つか」

- - - - 夜 - - - -

星五「晴れてよかったな綺麗な星が見える」

レイ「織姫様と彦星様みたいにどれだけの年が経っても一緒にいようね」

星五「そうだなくてもレイと離れるのは御免だな一生離れずにいよう」

七夕（後書き）

メンツはこういうイベントに参加しそうなメンバーを
そろそろ考えてる学園祭を終わらせなくては・・・
前後半に分けようかな・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2693s/>

G X world

2011年10月7日10時48分発行